

注3

大学番号：私立288

[平成元年度設置]

計画の区分： 学部の設置

注1

届出

広島文教大学 教育学部

注2

(旧名称：広島文教女子大学(令和元年度より大学名称変更))

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人武田学園

令和2年5月1日現在

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

教育学部

＜教育学科＞（初等教育専攻）	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	32

＜教育学科＞（中等教育専攻）	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	36
2. 授業科目の概要	40
3. 施設・設備の整備状況、経費	50
4. 既設大学等の状況	51
5. 教員組織の状況	52
6. 附帯事項等に対する履行状況等	63
7. その他全般的事項	64

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人武田学園

(2) 大学名

広島文教大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒731-0295

広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タケダヨシテル) 武田義輝 (平成25年4月)		
学長	(モリシタヨウジ) 森下要治 (平成29年4月)		
学部長	(オカトシミチ) 岡利道 (平成31年4月)		
学科長等	(イマザキヒロシ) 今崎浩 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
教育学部	教育学・保育学関係	年	人	年次	人	
教育学科		4	150	人	600	
初等教育専攻		4	150		600	
中等教育専攻		4	120		480	
学士(教育学)		4	30		120	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	1.10 倍	一倍	
志願者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	856 () []	人 () []	722 () []	人 () []			
受験者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	851 () []	人 () []	716 () []	人 () []			
合格者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	253 () []	人 () []	273 () []	人 () []			
B 入学者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	138 () []	人 () []	128 () []	人 () []			
入学定員超過率 B/A	-		-		-		1.15		1.06				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	138 [-] (-)	- [-] (-)	128 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	135 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/						/		/		- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)					138 [-] (-)

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	138 人	3 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(2人) 学生個人の心身に関する事情(1人)
令和2年度	128 人	人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		3 人		3 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{138} = \boxed{2.17} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{128} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学部 教育学科 初等教育専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史	1前	2			1						
	発達と学習	1前	2			2						
	日本語学概論	1前	2			1						
	教師・保育者論	1後	2			1	1					
	教育方法学	1後	2			1	1					
	幼児の理解	1後	1			1						
	児童の理解	1後	1			1						
	野外活動	2前	2			1						
	教育の制度と経営	2後	2			1						
	特別支援教育	2後	2									1
計(10科目)	-	16	2	0	3	5	0	0	0	0	1	
専門教育科目	教育・保育のカリキュラムマネジメント	2前	2			1	1					
	道徳教育の理論と方法	2後	2			1	1					
	特別活動指導法	2後	2			1		1				
	生徒指導論	3前	2			1	1					
	学校教育相談	3前	2			1						1
	総合的な学習とアクティブラーニング	3後	2									1
	進路指導とキャリア教育	3後	2			1						
	学校間連携教育	4前	2			2						
	インクルーシブ教育・保育	4前	2									1
	学校教育心理学	4前	2			1						
	保育原理	1後	2			1						
	社会福祉	2前	2									1
	児童家庭福祉	2後	2									1
	保育の心理学Ⅰ	1後	2			1						
保育の心理学Ⅱ	3後	1			1							
社会的養護	2前	2									1	
子ども家庭支援の心理学	2後	2			1						1	
家庭支援論	4前	2			1						1	
特別支援保育	3前	2									2	
保育相談支援	4前	1									1	
小計(20科目)	-	2	36	0	2	5	1	0	0	0	9	
領域・教科の専門的事項と指導法	教科の学び(国語)	1前	2		2							
	教科の学び(算数)	1前	2		1							
	教科の学び(社会)	1前	2		1							
	教科の学び(理科)	1後	2			1						1
	教科の学び(生活)	2前	2		1	1						
	教科の学び(音楽)	1前	2					2				5
	教科の学び(図画工作)	1後	2		1							1
	教科の学び(家庭)	2前	2									1
	教科の学び(体育)	1後	2		1							2
	英語科・外国語活動	1後	2		2	2						
	英語基礎演習	2前	2		1	1						
	英語学概論	2前	2			1						
	異文化理解	2後	2		2							
	教材の研究と開発(国語)	3前	2		1							
教材の研究と開発(算数)	3前	2		1								
教材の研究と開発(社会)	3前	2		1								
教材の研究と開発(理科)	3前	2			1							
教材の研究と開発(生活)	3前	2		1	1							
教材の研究と開発(音楽)	3前	2					1					
教材の研究と開発(図画工作)	3前	2		1								
教材の研究と開発(体育)	3前	2		1								
教材の研究と開発(英語)	3前	2		1								

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史(幼・小)	1前	2			1						
	発達と学習(幼・小)	1前	2			2						
	日本語学概論	1前	2					1				
	教師・保育者論	1後	2			1	1					
	教育方法学(幼・小)	1後	2			1	1					
	幼児の理解	1後	1					2				
	児童の理解	1後	1					2	1			
	野外活動	2前	2					2				
	教育の制度と経営(幼・小)	2後	2					1				
	特別支援教育(幼・小)	2後	2									1
計(10科目)	-	16	2	0	6	6	0	0	0	0	1	
専門教育科目	保育・教育課程論	2前	2			1	1					
	道徳教育の理論と方法(小)	2後	2			1	1					
	特別活動指導法(小)	2後	2			1		1				
	生徒指導論(小)	3前	2			1	1					
	学校教育相談(幼・小)	3前	2									1
	総合的な学習の時間の指導法(小)	3後	2									1
	進路指導とキャリア教育(小)	3後	2			1						
	学校間連携教育	4前	2			2						
	インクルーシブ教育・保育	4前	2									1
	学校教育心理学	4前	2					1				
	保育原理	1後	2			1						
	社会福祉	2前	2									1
	児童家庭福祉	2後	2									1
	保育の心理学Ⅰ	1後	2			1						
保育の心理学Ⅱ	3後	1			1							
社会的養護	2前	2									1	
子ども家庭支援の心理学	2後	2			1						1	
家庭支援論	4前	2			1						1	
特別支援保育	3前	2									2	
保育相談支援	4前	1									1	
小計(20科目)	-	4	34	0	2	5	1	0	0	0	10	
領域・教科の専門的事項と指導法	教科の学び(国語)	1前	2		2							
	教科の学び(算数)	1前	2		1							
	教科の学び(社会)	1前	2		1							
	教科の学び(理科)	1後	2			1						1
	教科の学び(生活)	2前	2		1	1						
	教科の学び(音楽)	1前	2					2				6
	教科の学び(図画工作)	1後	2		1							1
	教科の学び(家庭)	2前	2									1
	教科の学び(体育)	1後	2		1							2
	英語科・外国語活動	1後	2		2	2						
	英語基礎演習	2前	2		1	1						
	英語学概論	2前	2			1						
	異文化理解	2後	2		2							
	教材の研究と開発(国語)	3前	2		1							
教材の研究と開発(算数)	3前	2		1								
教材の研究と開発(社会)	3前	2		1								
教材の研究と開発(理科)	3前	2			1							
教材の研究と開発(生活)	3前	2		1	1							
教材の研究と開発(音楽)	3前	2					1					
教材の研究と開発(図画工作)	3前	2		1								
教材の研究と開発(体育)	3前	2		1								
教材の研究と開発(英語)	3前	2		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	国語科教育法	2後	1		1						
	算数科教育法	2後	1		1						
	社会科教育法	2後	1		1						
	理科教育法	2前	1			1					
	生活科教育法	2後	1		1	1					
	音楽科教育法	2後	1				1				
	図画工作科教育法	2前	1		1						
	家庭科教育法	2後	1							1	
	体育科教育法	2前	1		1						1
	初等英語科教育法	2前	1		1						
	国語科教育法演習	3後	2		1						
	算数科教育法演習	3後	2		1						
	社会科教育法演習	3後	2		1						
	理科教育法演習	3後	2			1					
	生活科教育法演習	3後	2		1	1					
	音楽科教育法演習	3後	2				1				
	図画工作科教育法演習	3後	2		1						
	体育科教育法演習	3後	2		1						
	初等英語科教育法演習	3後	2		1						
c	子どもと保育内容(健康)	1前	1		1						
	子どもと保育内容(人間関係)	1後	1			1					
	子どもと保育内容(環境)	1前	1		1						
	子どもと保育内容(言葉)	1後	1			1					
	子どもと保育内容(表現)	1後	1		1		1				
	子どもの保健Ⅰ	3前	2							1	
	保育の表現技術Ⅰ	2後	2				1				2
	保育の表現技術Ⅱ	3前	2		1						2
d	保育内容総論	3前	1			2					
	教材の研究と開発(健康)	3後	2		1						
	教材の研究と開発(人間関係)	3後	2			1					
	教材の研究と開発(環境)	3後	2		1						
	教材の研究と開発(言葉)	3後	2			1					
	教材の研究と開発(表現)	3後	2		1		1				
	保育内容の指導法(健康)	2後	1		1						
	保育内容の指導法(人間関係)	2前	1			1					
	保育内容の指導法(環境)	2後	1		1						
	保育内容の指導法(言葉)	2前	1			1					
	保育内容の指導法(表現)	2前	1		1		1			1	
	社会的養護内容	2後	1								1
	乳児保育論	2後	2			1					
	乳児保育	3前	1			1					
子どもの保健Ⅱ	4前	1								1	
子どもの食と栄養	4後	2								1	
小計(65科目)	-	0	106	0	11	6	2	0		18	
計(85科目)	-	2	142	0	11	8	2	0		25	
実践科目	学校教育の体験活動(小)	2通	2		1						
	幼児教育の体験活動	2通	2			2					
	教育実習Ⅰ	3前	1		1	1					
	教育実習Ⅱ	3後	2		1	1					
	教育実習Ⅲ	3後・4前	2		2						
	保育実習Ⅰ(保育所)	3前	2			1					
	保育実習Ⅰ(施設)	3前	2			1					
	保育実習Ⅱ	3後	2			1					
	保育実習Ⅲ	3後	2			1					
	保育実習指導ⅠA	2後	1		1						
	保育実習指導ⅠB	3前	1		1						
	保育実習指導Ⅱ	3後	1			1					
	保育実習指導Ⅲ	3後	1			1					
	教職実践演習(幼・小)	4後	2		1	1					
計(14科目)	-	0	23	0	2	3	0	0	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	国語科教育法	2後	1		1						
	算数科教育法	2後	1		1						
	社会科教育法	2後	1		1						
	理科教育法	2前	1			1					
	生活科教育法	2後	1		1	1					
	音楽科教育法	2後	1				1				
	図画工作科教育法	2前	1		1						
	家庭科教育法	2後	1								1
	体育科教育法	2前	1		1						1
	初等英語科教育法	2前	1		1						
	国語科教育法演習	3後	2		1						
	算数科教育法演習	3後	2		1						
	社会科教育法演習	3後	2		1						
	理科教育法演習	3後	2			1					
	生活科教育法演習	3後	2		1	1					
	音楽科教育法演習	3後	2				1				
	図画工作科教育法演習	3後	2		1						
	体育科教育法演習	3後	2		1						
	初等英語科教育法演習	3後	2		1						
c	子どもと保育内容(健康)	1前	1		1						
	子どもと保育内容(人間関係)	1後	1			1					
	子どもと保育内容(環境)	1前	1		1		1				
	子どもと保育内容(言葉)	1後	1			1					
	子どもと保育内容(表現)	1後	1		1		1			1	
	子どもの保健Ⅰ	3前	2								1
	保育の表現技術Ⅰ	2後	2				1				2
	保育の表現技術Ⅱ	3前	2		1						2
d	保育内容総論	3前	1			2					
	教材の研究と開発(健康)	3後	2		1						
	教材の研究と開発(人間関係)	3後	2			1					
	教材の研究と開発(環境)	3後	2		1						
	教材の研究と開発(言葉)	3後	2			1					1
	教材の研究と開発(表現)	3後	2		1		1				
	保育内容の指導法(健康)	2後	1		1						
	保育内容の指導法(人間関係)	2前	1			1					
	保育内容の指導法(環境)	2後	1		1						
	保育内容の指導法(言葉)	2前	1			1					1
	保育内容の指導法(表現)	2前	1		1		1			1	
	社会的養護内容	2後	1								3
	乳児保育論	2後	2			1					
	乳児保育	3前	1			1					
子どもの保健Ⅱ	4前	1								1	
子どもの食と栄養	4後	2								1	
小計(65科目)	-	0	106	0	11	6	2	0		18	24
計(85科目)	-	4	140	0	11	8	2	0		25	29
実践科目	学校教育の体験活動(小)	2通	2				2	1	1		
	幼児教育の体験活動	2通	2						3		
	教育実習Ⅰ	3前	1		1	1					
	教育実習Ⅱ	3後	2		1	1					
	教育実習Ⅲ	3後・4前	2		2						
	保育実習Ⅰ(保育所)	3前	2			1					
	保育実習Ⅰ(施設)	3前	2			1					
	保育実習Ⅱ	3後	2			1					
	保育実習Ⅲ	3後	2			1					
	保育実習指導ⅠA	2後	1		1						
	保育実習指導ⅠB	3前	1		1						
	保育実習指導Ⅱ	3後	1			1					
	保育実習指導Ⅲ	3後	1			1					
	教職実践演習(幼・小)	4後	2		1	1					
計(14科目)	-	0	23	0	2	3	0	0	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
探求科目	教育学入門	1前・1後	2				1						
	教育学研究Ⅰ	2前	2			7	7	2					
	教育学研究Ⅱ	2後	2			7	7	2					
	教育学研究Ⅲ	3前	2			7	7	2					
	教育学研究Ⅳ	3後	2			7	7	2					
	卒業研究	4前・4後	4			7	7	2					
計(6科目)			—	14	0	0	7	7	2	0	0	0	
専門教育科目合計(115科目)			—	32	167	0	11	9	2	0	0	26	
教養教育科目	人間学科目群	文教学入門	1前	2								1	
		日本国憲法	1後	2			1					1	
		人生論	3前	2								1	
		大学での学びⅠ	1前	1								1	
		大学での学びⅡ	1後	1			1	1				1	
		小計(5科目)	—	4	4	0	2	1	0	0	0	3	
	現代教養科目群	A	現代思想と哲学	2～3	2								2
			日本とヒロシマの歴史	2～3	2								1
			文学を読む意味	2～3	2								1
			言葉とコミュニケーション	2～3	2			1					
			欧米と日本	2～3	2			1					
			アジアと日本	2～3	2								2
			社会とジェンダー	2～3	2								1
		B	くらしの中の心理学	2～3	2								1
			くらしと経済	2～3	2								1
			くらしと法律	2～3	2								1
	C	くらしと社会福祉	2～3	2								1	
		地域と社会	2～3	2								1	
		子どもと社会	2～3	2								2	
		人権問題の歩みとその展望	2～3	2								1	
		社会と生命科学	2～3	2								2	
食の科学		2～3	2								1		
からだと健康		2～3	2								2		
小計(21科目)	—	0	42	0	2	2	0	0	0	0	22		
	スキル教育科目群	国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2								2
			英語コミュニケーションⅡ	1後	2								2
			英語コミュニケーションⅢ	2前	2								2
			英語コミュニケーションⅣ	2後	2								2
国際教育系Ⅱ		イングリッシュワークショップⅠ	3前	1								1	
		イングリッシュワークショップⅡ	3後	1								1	
		イングリッシュワークショップⅢ	4前	1								1	
		イングリッシュワークショップⅣ	4後	1								1	
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前	2								1	
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後	2								1	
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前	2								1	
		フランスの言葉と文化Ⅳ	3後	2								1	
		中国の言葉と文化Ⅰ	2前	2								1	
		中国の言葉と文化Ⅱ	2後	2								1	
情報教育系	情報処理演習Ⅰ	1前	1								2		
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								2		
	情報処理演習Ⅲ	2前	2								1		
	情報処理演習Ⅳ	2後	2								1		
運動学演習Ⅰ	1前	1			1						1		
	1・2・3・4後	1									1		
配出			単位数			専任教員等の配置					兼任		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
探求科目	教育学入門	1前・1後	2				1						
	教育学研究Ⅰ	2前	2			7	7	2					
	教育学研究Ⅱ	2後	2			7	7	2					
	教育学研究Ⅲ	3前	2			7	7	2					
	教育学研究Ⅳ	3後	2			7	7	2					
	卒業研究	4前・4後	4			7	7	2					
計(6科目)			—	14	0	0	7	7	2	0	0	0	
専門教育科目合計(115科目)			—	34	165	0	12	9	1	0	0	30	
教養教育科目	人間学科目群	文教学入門	1前	2								1	
		日本国憲法	1後	2								1	
		人生論	3前	2								1	
		大学での学びⅠ	1前	1								2	
		大学での学びⅡ	1後	1			1	1				1	
		小計(5科目)	—	4	4	0	2	1	0	0	0	4	
	現代教養科目群	A	現代思想と哲学	2～3	2								2
			日本とヒロシマの歴史	2～3	2								1
			文学を読む意味	2～3	2								1
			言葉とコミュニケーション	2～3	2			1					
			欧米と日本	2～3	2			1					
			アジアと日本	2～3	2								1
			社会とジェンダー	2～3	2								1
		B	くらしの中の心理学	2～3	2								1
			くらしと経済	2～3	2								1
			くらしと法律	2～3	2								1
	C	くらしと社会福祉	2～3	2								1	
		地域と社会	2～3	2								2	
		子どもと社会	2～3	2								1	
		人権問題の歩みとその展望	2～3	2								1	
		社会と生命科学	2～3	2								2	
食の科学		2～3	2								1		
からだと健康		2～3	2								2		
小計(21科目)	—	0	42	0	2	2	0	0	0	0	22		
	スキル教育科目群	国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2								8
			英語コミュニケーションⅡ	1後	2								8
			英語コミュニケーションⅢ	2前	2								6
			英語コミュニケーションⅣ	2後	2								6
国際教育系Ⅱ		イングリッシュワークショップⅠ	3前	1								1	
		イングリッシュワークショップⅡ	3後	1								1	
		イングリッシュワークショップⅢ	4前	1								1	
		イングリッシュワークショップⅣ	4後	1								1	
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前	2								1	
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後	2								1	
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前	2								1	
		フランスの言葉と文化Ⅳ	3後	2								1	
		中国の言葉と文化Ⅰ	2前	2								1	
		中国の言葉と文化Ⅱ	2後	2								1	
情報教育系	情報処理演習Ⅰ	1前	1								3		
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								3		
	情報処理演習Ⅲ	2前	2								1		
	情報処理演習Ⅳ	2後	2								1		
運動学演習Ⅰ	1前	1			1						2		
	1・2・3・4後	1									1		
配出			単位数			専任教員等の配置					兼任		

授業科目の名称		三 年 次	必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	・ 兼 担	
生涯教育系	運動学演習Ⅲ	2前		1							1	
	運動学演習Ⅳ	2後		1							1	
	生涯学習概論	1後		2							1	
	健康とスポーツ	1後		1							1	
	制作技法演習Ⅰ	3・4前		1		1						
	制作技法演習Ⅱ	3・4後		1		1						
	障害者コミュニケーション技術	1前		1							1	
小計(31科目)	—	6	42	0	2	0	0	0	0	0	11	
キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後		2							1	
	キャリア形成概論Ⅱ	2前		2							1	
	インターンシップ	2前		2							1	
	プレゼンテーション技法	2後		2							1	
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前		2							1	
	ビジネス文書	3後		2							1	
	小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	0	2
教養教育科目 合計(63科目)		—	10	100	0	6	2	0	0	0	0	31
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後			2						1
		図書館概論	1前			2		1				
		図書館情報技術論	4前			2		1				
		図書館制度・経営論	3前			2						1
		図書館サービス概論	3前			2						1
		情報サービス論	3後			2		1				
	乙群	読書と豊かな人間性	3後			2		1				
		情報サービス演習	4前			2		1				
		図書館情報資源概論	1後			2						1
		情報資源組織論	2前			2						1
		情報資源組織演習	2後			2						1
		図書館サービス特論	4後			1		1				
		図書・図書館史	4後			1						1
司書科目 合計(13科目)		—	0	0	24	1	1	0	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書	2前			2		1				1	
	学校図書館メディアの構成	1後			2		1					
	学習指導と学校図書	2後			2		1					
	読書と豊かな人間性	3後			2		1					
	情報メディアの活用	3前			2		1					
司書教諭科目 合計(5科目)		—	0	0	10	1	2	0	0	0	0	1
総合計(196科目)		—	42	267	34	11	10	2	0	0	0	61

授業科目の名称		三 年 次	必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	・ 兼 担	
生涯教育系	運動学演習Ⅲ	2前		1							1	
	運動学演習Ⅳ	2後		1							1	
	生涯学習概論	1後		2							1	
	健康とスポーツ	1後		1							1	
	制作技法演習Ⅰ	3・4前		1		1						
	制作技法演習Ⅱ	3・4後		1		1						
	障害者コミュニケーション技術	1前		1							3	
小計(31科目)	—	6	42	0	2	0	0	0	0	0	23	
キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後		2							1	
	キャリア形成概論Ⅱ	2前		2							1	
	インターンシップ	2前		2							1	
	プレゼンテーション技法	2後		2							1	
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前		2							1	
	ビジネス文書	3後		2							1	
	小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	0	2
教養教育科目 合計(63科目)		—	10	100	0	6	2	0	0	0	0	44
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後			2						1
		図書館概論	1前			2		1				
		図書館情報技術論	4前			2		1				
		図書館制度・経営論	3前			2						1
		図書館サービス概論	3前			2						1
		情報サービス論	3後			2		1				
	乙群	読書と豊かな人間性	3後			2		1				
		情報サービス演習	4前			2		1				
		図書館情報資源概論	1後			2						1
		情報資源組織論	2前			2						1
		情報資源組織演習	2後			2						1
		図書館サービス特論	4後			1		1				
		図書・図書館史	4後			1						1
司書科目 合計(13科目)		—	0	0	24	1	1	0	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書	2前			2		1				1	
	学校図書館メディアの構成	1後			2		1					
	学習指導と学校図書	2後			2		1					
	読書と豊かな人間性	3後			2		1					
	情報メディアの活用	3前			2		1					
司書教諭科目 合計(5科目)		—	0	0	10	1	2	0	0	0	0	1
総合計(196科目)		—	44	265	34	12	8	2	0	0	0	73

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】

- ① 人間学科目群から4単位以上
- ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
- ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
- ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】

教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び必修選択科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目16単位を修得し、教養教育科目・基礎科目・展開科目・実践科目から65単位以上、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《幼児教育コース》

＜幼稚園教諭一種免許状＞

教育・保育のカリキュラムマネジメント、学校教育相談、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上を修得すること。

＜保育士資格＞

教育・保育のカリキュラムマネジメント、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。

《児童教育コース》

＜小学校教諭一種免許状＞

教育・保育のカリキュラムマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】

- ① 人間学科目群から4単位以上
- ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
- ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
- ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】

教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び選択必修科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目18単位及び選択必修科目30単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《幼児教育コース》

＜幼稚園教諭一種免許状＞

保育・教育課程論、学校教育相談(幼・小)、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、保育内容総論、子どもの食と栄養のうち2単位、及び教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、また、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱのうち2単位を修得すること。

＜保育士資格＞

保育・教育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育論、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。

《児童教育コース》

＜小学校教諭一種免許状＞

保育・教育課程論、道徳教育の理論と方法(小)、特別活動指導法(小)、生徒指導論(小)、学校教育相談(幼・小)、総合的な学習の時間の指導法(小)、進路指導とキャリア教育(小)、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史(幼・小)	1前	2			1						
	発達と学習(幼・小)	1前	2			2						
	日本語学概論	1前	2			1						
	教師・保育者論	1後	2			1	1					
	教育方法学(幼・小)	1後	2			1	1					
	幼児の理解	1後		1			1					
	児童の理解	1後		1			1					
	野外活動	2前	2				1					
	教育の制度と経営(幼・小)	2後	2				1					
	特別支援教育(幼・小)	2後	2								1	
計(10科目)	-	16	2	0	4	4	0	0	0	1		
専門教育科目	保育・教育課程論	2前	2			1	1					
	道徳教育の理論と方法(小)	2後		2			1					
	特別活動指導法(小)	2後		2		1		1				
	生徒指導論(小)	3前		2		1	1					
	学校教育相談(幼・小)	3前	2								1	
	総合的な学習の時間の指導法(小)	3後		2							1	
	進路指導とキャリア教育(小)	3後		2			1					
	学校間連携教育	4前		2		2						
	インクルーシブ教育・保育	4前		2							1	
	学校教育心理学	4前		2			1					
展開科目	保育原理	1後		2			1					
	社会福祉	2前		2							1	
	児童家庭福祉	2後		2							1	
	保育の心理学Ⅰ	1後		2			1					
	保育の心理学Ⅱ	3後		1			1					
	社会的養護	2前		2							1	
	子ども家庭支援の心理学	2後		2			1				1	
	家庭支援論	4前		2			1				1	
	特別支援保育	3前		2							2	
	保育相談支援	4前		1							1	
小計(20科目)	-	4	34	0	2	5	1	0	0	10		
B 領域・教科の専門的事項と指導法	教科の学び(国語)	1前		2		2						
	教科の学び(算数)	1前		2		1						
	教科の学び(社会)	1前		2		1						
	教科の学び(理科)	1後		2			1				1	
	教科の学び(生活)	2前		2		1	1					
	教科の学び(音楽)	1前		2				2			5	
	教科の学び(図画工作)	1後		2		1					1	
	教科の学び(家庭)	2前		2							1	
	教科の学び(体育)	1後		2		1					2	
	英語科・外国語活動	1後		2		2						
a	英語基礎演習	2前		2		1	1					
	英語学概論	2前		2			1					
	異文化理解	2後		2		2						
	b	教材の研究と開発(国語)	3前		2		1					
		教材の研究と開発(算数)	3前		2		1					
		教材の研究と開発(社会)	3前		2		1					
		教材の研究と開発(理科)	3前		2			1				
		教材の研究と開発(生活)	3前		2		1	1				
		教材の研究と開発(音楽)	3前		2				1			
		教材の研究と開発(図画工作)	3前		2		1					
教材の研究と開発(体育)		3前		2		1						
教材の研究と開発(英語)		3前		2		1						
国語科教育法		2後		1		1						
算数科教育法	2後		1		1							
社会科教育法	2後		1		1							
理科教育法	2前		1			1						
生活科教育法	2後		1		1	1						
音楽科教育法	2後		1				1					
図画工作科教育法	2前		1		1							

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	家庭科教育法	2後		1								1	
	体育科教育法	2前		1		1						1	
	初等英語科教育法	2前		1		1							
	国語科教育法演習	3後		2		1							
	算数科教育法演習	3後		2		1							
	社会科教育法演習	3後		2		1							
	理科教育法演習	3後		2			1						
	生活科教育法演習	3後		2		1	1						
	音楽科教育法演習	3後		2				1					
	図画工作科教育法演習	3後		2		1							
	体育科教育法演習	3後		2		1							
	初等英語科教育法演習	3後		2		1							
	c	子どもと保育内容(健康)	1前		1		1						
		子どもと保育内容(人間関係)	1後		1			1					
子どもと保育内容(環境)		1前		1		1							
子どもと保育内容(言葉)		1後		1		1						1	
子どもと保育内容(表現)		1後		1		1		1				1	
子どもの保健 I		3前		2								1	
保育の表現技術 I		2後		2				1				2	
保育の表現技術 II	3前		2		1						2		
d	保育内容総論	3前		1			2						
	教材の研究と開発(健康)	3後		2		1							
	教材の研究と開発(人間関係)	3後		2			1						
	教材の研究と開発(環境)	3後		2		1							
	教材の研究と開発(言葉)	3後		2			1					1	
	教材の研究と開発(表現)	3後		2		1		1					
	保育内容の指導法(健康)	2後		1		1							
	保育内容の指導法(人間関係)	2前		1			1						
	保育内容の指導法(環境)	2後		1		1							
	保育内容の指導法(言葉)	2前		1			1					1	
	保育内容の指導法(表現)	2前		1		1		1				1	
	社会的養護内容	2後		1								1	
	乳児保育論	2後		2			1						
乳児保育	3前		1			1							
子どもの保健 II	4前		1								1		
子どもの食と栄養	4後		2								1		
小計(65科目)	-	0	106	0	12	5	2	0			21		
計(85科目)	-	4	140	0	12	7	2	0			29		
実践 科目	学校教育の体験活動(小)	2通		2		1							
	幼児教育の体験活動	2通		2			2						
	教育実習 I	3前		1		1	1						
	教育実習 II	3後		2		1	1						
	教育実習 III	3後・4前		2		2							
	保育実習 I(保育所)	3前		2			1						
	保育実習 I(施設)	3前		2			1						
	保育実習 II	3後		2			1						
	保育実習 III	3後		2			1						
	保育実習指導 I A	2後		1		1							
	保育実習指導 I B	3前		1		1							
	保育実習指導 II	3後		1			1						
	保育実習指導 III	3後		1			1						
	教職実践演習(幼・小)	4後		2		1	1						
計(14科目)	-	0	23	0	2	3	0	0	0				
探求 科目	教育学入門	1前・1後		2			1						
	教育学研究 I	2前		2		7	7	2					
	教育学研究 II	2後		2		7	7	2					
	教育学研究 III	3前		2		7	7	2					
	教育学研究 IV	3後		2		7	7	2					
	卒業研究	4前・4後		4		7	7	2					
計(6科目)	-	14	0	0	7	7	2	0	0	0			
専門教育科目合計(115科目)	-	34	165	0	12	8	2	0	0		30		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
人間 学 科 目 群	文教学入門	1前	2								1	
	日本国憲法	1後	2			1					1	
	人生論	3前		2							1	
	大学での学びⅠ	1前		1							1	
	大学での学びⅡ	1後		1		1	1					
	小計(5科目)	-	4	4	0	2	1	0	0	0	3	
現代 教 養 科 目 群	現代思想と哲学	2~3		2							2	
	日本とヒロシマの歴史	2~3		2							1	
	文学を読む意味	2~3		2							1	
	A 言葉とコミュニケーション	2~3		2		1						
	欧米と日本	2~3		2		1						
	アジアと日本	2~3		2							2	
	社会とジェンダー	2~3		2							1	
	B 暮らしの中の心理学	2~3		2							1	
	暮らしと経済	2~3		2							1	
	暮らしと法律	2~3		2							1	
	暮らしと社会福祉	2~3		2							1	
	地域と社会	2~3		2							1	
	子どもと社会	2~3		2							1	
	人権問題の歩みとその展望	2~3		2							1	
	C 社会と生命科学	2~3		2							2	
	食の科学	2~3		2							1	
	からだと健康	2~3		2							2	
	暮らしと自然	2~3		2			1					
	環境の科学	2~3		2							1	
	食生活と健康	2~3		2							2	
	メディアと社会	2~3		2			1					
小計(21科目)	-	0	42	0	2	2	0	0	0	22		
教 養 教 育 科 目	国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2							8	
	英語コミュニケーションⅡ	1後	2								8	
	英語コミュニケーションⅢ	2前		2							2	
	英語コミュニケーションⅣ	2後		2							2	
	国際 教 育 系 Ⅱ	イングリッシュワークショップⅠ	3前		1							1
		イングリッシュワークショップⅡ	3後		1							1
		イングリッシュワークショップⅢ	4前		1							1
		イングリッシュワークショップⅣ	4後		1							1
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前		2							1
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後		2							1
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前		2							1
		フランスの言葉と文化Ⅳ	3後		2							1
		中国の言葉と文化Ⅰ	2前		2							1
		中国の言葉と文化Ⅱ	2後		2							1
		中国の言葉と文化Ⅲ	3前		2							1
		中国の言葉と文化Ⅳ	3後		2							1
	異文化への理解Ⅰ	2前		2							1	
	異文化への理解Ⅱ	2後		2							1	
	情 報 教 育 系	情報処理演習Ⅰ	1前	1								2
		情報処理演習Ⅱ	1後	1								2
		情報処理演習Ⅲ	2前		2							1
		情報処理演習Ⅳ	2後		2							1
	生 涯 教 育 系	運動学演習Ⅰ	1前		1		1					1
		運動学演習Ⅱ	1~2・3・4後		1							1
運動学演習Ⅲ		2前		1							1	
運動学演習Ⅳ		2後		1							1	
生涯学習概論		1後		2							1	
健康とスポーツ		1後		1							1	
制作技法演習Ⅰ		3~4前		1		1						
制作技法演習Ⅱ		3~4後		1		1						
障害者コミュニケーション技術		1前		1							6	
小計(31科目)	-	6	42	0	2	0	0	0	0	22		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	キャリア形成科目群	インターンシップ	2前	2							1	
		プレゼンテーション技法	2後	2							1	
		コミュニケーションとソーシャルスキル	3前	2							1	
		ビジネス文書	3後	2							1	
		小計(6科目)	-	0	8	0	0	0	0	0	0	2
教養教育科目 合計(63科目)			-	10	96	0	6	2	0	0	0	42
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					
		図書館情報技術論	4前		2		1					
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					
		読書と豊かな人間性	3後		2	1						
		情報サービス演習	4前		2		1					
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
	情報資源組織演習	2後		2							1	
	乙群	図書館サービス特論	4後		1		1					
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)			-	0	0	24	1	1	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1						
	学習指導と学校図書	2後		2		1						
	読書と豊かな人間性	3後		2	1							
	情報メディアの活用	3前		2		1						
司書教諭科目 合計(5科目)			-	0	0	10	1	2	0	0	0	1
総合計(196科目)			-	44	261	34	12	9	2	0	0	73

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】

- ① 人間学科目群から4単位以上
- ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
- ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
- ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】

教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び選択必修科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目18単位及び選択必修科目30単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《幼児教育コース》

<幼稚園教諭一種免許状>

保育・教育課程論、学校教育相談(幼・小)、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、保育内容総論、子どもの食と栄養のうち2単位、及び教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、また、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱのうち2単位を修得すること。

<保育士資格>

保育・教育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育論、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。

《児童教育コース》

＜小学校教諭一種免許状＞

保育・教育課程論、道徳教育の理論と方法(小)、特別活動指導法(小)、生徒指導論(小)、学校教育相談(幼・小)、総合的な学習の時間の指導法(小)、進路指導とキャリア教育(小)、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更
 - ・「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の時間の指導法」に変更
- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更（元の科目名に（幼・小）または（小）を追記）
 - ・教育の思想と歴史（幼・小）
 - ・発達と学習（幼・小）
 - ・教育方法学（幼・小）
 - ・教育の制度と経営（幼・小）
 - ・特別支援教育（幼・小）
 - ・道徳教育の理論と方法（小）
 - ・特別活動指導法（小）
 - ・生徒指導論（小）
 - ・学校教育相談（幼・小）
 - ・総合的な学習の時間の指導法（小）
 - ・進路指導とキャリア教育（小）
- ・教職課程認定における指摘により授業科目名及び履修区分を変更
 - ・「教育・保育のカリキュラムマネジメント」を「保育・教育課程論」に変更し、「選択」から「必修」に変更
- ・教職課程認定における指摘により教員配置を変更
 - ・学校教育相談（幼・小）（准教授1から兼任1に変更）
 - ・体育科教育法（教授1から教授1、兼任1に変更）
 - ・子どもと保育内容（表現）（教授1、講師1から教授1、講師1、兼任1に変更）
 - ・教材の研究と開発（言葉）（准教授1から准教授1、兼任1に変更）
 - ・保育内容の指導法（言葉）（准教授1から准教授1、兼任1に変更）
- ・昇任人事により、専任教員等の配置を変更
 - ・日本語学概論（准教授1から教授1に変更）
 - ・子どもと保育内容（言葉）（准教授1から教授1に変更）
- ・入学者数の増加に伴いクラスを分割することとしたため、教員配置を変更
 - ・英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ（兼任2から兼任8に変更）
 - ・障害者コミュニケーション技術（兼任1から兼任6に変更）

【令和2年度】

- ・指導体制の充実を図るため、「幼児の理解」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「児童の理解」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」「准教授1名」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「野外活動」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更
- ・講師辞任により、「教科の学び（音楽）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」、兼任・兼任を「5」から「6」に変更
- ・兼任教員辞任及び指導体制の充実を図るため、「社会的養護内容」の兼任・兼任を「1」から「3」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「学校教育の体験活動（小）」の専任教員等の配置を「教授1名」から「教授2」「准教授1名」「講師1」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「幼児教育の体験活動」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更
- ・専任教員の時間割の都合により、「日本国憲法」の専任教員等の配置を「教授1」から「なし」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「大学での学びⅠ」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「大学での学びⅡ」の兼任・兼任「1」を追加
- ・兼任教員1名で担当することとしたため、「アジアと日本」の兼任・兼任を「2」から「1」に変更
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、「地域と社会」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「英語コミュニケーションⅢ」の兼任・兼任を「2」から「6」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「英語コミュニケーションⅣ」の兼任・兼任を「2」から「6」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「情報処理演習Ⅰ」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「情報処理演習Ⅱ」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更
- ・兼任教員辞任により、「運動学演習Ⅰ」の兼任・兼任を「1（兼任）」から「2（兼任）」に変更
- ・授業内容の見直しのため、「障害者コミュニケーション技術」の兼任・兼任を「1」から「3」に変更

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
21 科目	157 科目	18 科目	196 科目	22 科目 [1]	156 科目 [△ 1]	18 科目 [-]	196 科目 [-]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{196} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況,経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎の建て替えにより 校舎敷地が減少した		
	校舎敷地	26,15826.362㎡	0㎡	0㎡	26,15826.362㎡			
	運動場用地	15,912㎡	0㎡	0㎡	15,912㎡			
	小 計	42,07042.274㎡	0㎡	0㎡	42,07042.274㎡			
	そ の 他	27,411㎡	0㎡	0㎡	27,411㎡			
	合 計	69,48169.685㎡	0㎡	0㎡	69,48169.685㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	〇〇短期大学と共用			
	(25,498㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(25,498㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	(補助職員 人) (補助職員 人)		
	3室	19室	5室	1室	0室			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			室		
	教育学部 教育学科		21 23					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
		教育学部 (95,474 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,550)	246 (206)	15 (6)	
	計	95,965 [18,972] (95,474 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,550)	246 (206)	15 (6)	
	計	95,965 [18,972] (95,474 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,550)	246 (206)	15 (6)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				
	3,000㎡		290席	300,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	3,103㎡		テニスコート: 2,769㎡		プール: 827㎡			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	1235千円	1235千円	1235千円
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	1900千円	4000千円	800千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1290+250千円	1020千円	1020千円	1020千円	0千円	0千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、寄付金、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		広島文教大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地		
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度		
教育学部	4	150	0	600	学士 (教育学)	1.09	1.06	-	令和元	-		
教育学科	4	150	0	600	学士 (教育学)	1.09	1.06	-	令和元	広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1		
初等教育専攻	4	120	0	480	学士 (教育学)	1.10	1.06	-	令和元	同上		
中等教育専攻	4	30	0	120	学士 (教育学)	1.03	1.06	-	令和元	同上		
人間科学部	4	240	3年次 35	1,030	-	0.94	1.18	令和元	昭和41	同上	平成12年文学部から 学部名称変更 令和元年学生募集 停止	
初等教育学科	4	-	-	-	学士 (文学)	1.37	-	-	昭和56	同上		
人間福祉学科	4	60	3年次 20	280	学士 (文学)	0.72	1.11	令和元	平成12	同上	定員変更(△20)	
心理学科	4	50	3年次 10	220	学士 (文学)	1.10	1.70	令和元	平成14	同上	定員変更(△20)	
人間栄養学科	4	70	0	280	学士 (栄養学)	0.79	0.88	-	平成14	同上		
グローバルコミュニケーション学科	4	60	3年次 5	250	学士 (文学)	0.80	1.16	令和元	平成22	同上	定員変更(△10)	
大学全体	4	390	35	1,630	-	0.93	1.13	-	-	-		
大学の名称		〇〇短期大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地		
	年	人	年次	人		倍						
該当なし												

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学部 教育学科> (初等教育専攻)

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	岡 利 道 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	岡 利 道 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	岡 利 道 (62) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教師・保育者論 ※ 国語科教育法 教材の研究と開発(国語) 国語科教育法演習 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 読書と豊かな人間性			教師・保育者論 ※ 国語科教育法 教材の研究と開発(国語) 国語科教育法演習 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 読書と豊かな人間性			教師・保育者論 ※ 国語科教育法 教材の研究と開発(国語) 国語科教育法演習 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 読書と豊かな人間性
専	教授	石 原 義 文 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	石 原 義 文 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	石 原 義 文 (62) <平成31年4月> 修士(教育学)
		英語科・外国語活動の学び 異文化理解 算数科教育法 初等英語科教育法演習 教材の研究と開発(英語) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究			英語科・外国語活動の学び 異文化理解 算数科教育法 初等英語科教育法演習 教材の研究と開発(英語) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究			英語科・外国語活動の学び 異文化理解 算数科教育法 初等英語科教育法演習 教材の研究と開発(英語) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	教授	今 崎 浩 (56) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	今 崎 浩 (55) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	今 崎 浩 (57) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(算数) 特別活動指導法 ※ 算数科教育法演習 生徒指導論 ※ 教材の研究と開発(算数) 学校間連携教育 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※			教科の学び(算数) 特別活動指導法(小) ※ 算数科教育法演習 生徒指導論(小) ※ 教材の研究と開発(算数) 学校間連携教育 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※			教科の学び(算数) 特別活動指導法(小) ※ 算数科教育法演習 生徒指導論(小) ※ 教材の研究と開発(算数) 学校間連携教育 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※
専	教授	川 西 正 行 (63) <平成31年4月> 教育学修士	専	教授	川 西 正 行 (63) <平成31年4月> 教育学修士	専	教授	川 西 正 行 (64) <平成31年4月> 教育学修士
		子どもと保育内容(健康) 教科の学び(体育) ※ 体育科教育法 保育内容の指導法(健康) 教材の研究と開発(体育) 体育科教育法演習 教材の研究と開発(健康) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 運動学演習Ⅰ			子どもと保育内容(健康) 教科の学び(体育) ※ 体育科教育法 ※ 保育内容の指導法(健康) 教材の研究と開発(体育) 体育科教育法演習 教材の研究と開発(健康) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 運動学演習Ⅰ			子どもと保育内容(健康) 教科の学び(体育) ※ 体育科教育法 ※ 保育内容の指導法(健康) 教材の研究と開発(体育) 体育科教育法演習 教材の研究と開発(健康) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 運動学演習Ⅰ
専	教授	小 西 弘 信 (55) <平成31年4月> 文学修士	専	教授	小 西 弘 信 (55) <平成31年4月> 文学修士	専	教授	小 西 弘 信 (56) <平成31年4月> 文学修士
		英語基礎演習 欧米と日本			英語基礎演習 欧米と日本			英語基礎演習 欧米と日本
専	教授	佐 伯 育 郎 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	佐 伯 育 郎 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	佐 伯 育 郎 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)
		児童の理解 教科の学び(図画工作) ※ 子どもと保育内容(表現) ※ 学校教育の体験活動(小) 図画工作科教育法 保育内容の指導法(表現) ※ 図画工作科教育法演習 教材の研究と開発(表現) ※ 教材の研究と開発(図画工作) 保育の表現技術Ⅱ ※ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究			児童の理解 教科の学び(図画工作) ※ 子どもと保育内容(表現) ※ 学校教育の体験活動(小) 図画工作科教育法 保育内容の指導法(表現) ※ 図画工作科教育法演習 教材の研究と開発(表現) ※ 教材の研究と開発(図画工作) 保育の表現技術Ⅱ ※ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究			児童の理解 教科の学び(図画工作) ※ 子どもと保育内容(表現) ※ 学校教育の体験活動(小) 図画工作科教育法 保育内容の指導法(表現) ※ 図画工作科教育法演習 教材の研究と開発(表現) ※ 教材の研究と開発(図画工作) 保育の表現技術Ⅱ ※ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	教授	笹 原 豊 造 (68) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	笹 原 豊 造 (68) <平成31年4月> 修士(教育学)	専	教授	笹 原 豊 造 (69) <平成31年4月> 修士(教育学)
		異文化理解 英語科・外国語活動の学び			異文化理解 英語科・外国語活動の学び			異文化理解 英語科・外国語活動の学び
専	教授	杉 山 浩 之 (60) <平成31年4月> 教育学修士 ※	専	教授	杉 山 浩 之 (60) <平成31年4月> 教育学修士 ※	専	教授	杉 山 浩 之 (61) <平成31年4月> 教育学修士 ※
		子どもと保育内容(環境) 教育方法学 ※ 野外活動 教育・保育のキャリアデザイン ※ 保育内容の指導法(環境) 保育実習指導ⅠA 保育実習指導ⅠB 教材の研究と開発(環境) 教育実習Ⅲ 学校間連携教育 ※ 教職実践演習(幼・小) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究			子どもと保育内容(環境) 教育方法学(幼・小) ※ 野外活動 保育・教育実践論 ※ 保育内容の指導法(環境) 保育実習指導ⅠA 保育実習指導ⅠB 教材の研究と開発(環境) 教育実習Ⅲ 学校間連携教育 ※ 教職実践演習(幼・小) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究			子どもと保育内容(環境) 教育方法学(幼・小) ※ 野外活動 保育・教育実践論 ※ 保育内容の指導法(環境) 保育実習指導ⅠA 保育実習指導ⅠB 教材の研究と開発(環境) 教育実習Ⅲ 学校間連携教育 ※ 教職実践演習(幼・小) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	橋村 勝明 (50) <平成31年4月> 博士(文学)
		教科の学び(国語) ※ 言葉とコミュニケーション
専	教授	村上 典章 (63) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(社会) 社会科教育法 生活科教育法 教科の学び(生活) 社会科教育法演習 生活科教育法演習 教材の研究と開発(社会) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 日本国憲法 ※
専	教授	森 哲之 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(国語) ※ 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ
専	准教授	猪川 優子 (45) <平成31年4月> 博士(文学)
		学習指導と学校図書館
専	准教授	上利 学 (53) <平成31年4月> 修士(文学)
		英語基礎演習 英語学概論
専	准教授	上村 加奈 (54) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育・保育のかほりプロジェクト ※ 保育内容の指導法(言葉) 保育内容総論 ※ 乳児保育論 乳児保育 保育実習Ⅰ(保育所) 教育実習Ⅰ 教材の研究と開発(言葉) 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	黒木 晶子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)
		日本語学概論 子どもと保育内容(言葉)
専	准教授	三田 幸司 (54) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教科の学び(理科) ※ 生活科教育法 教科の学び(生活) 理科教育法 生活科教育法演習 理科教育法演習 教材の研究と開発(理科) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※ くらしと自然
専	准教授	庄(小川) ゆかり (53) <平成31年4月> 博士(学術)
		教育方法学 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 メディアと社会 図書館概論 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス演習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館
専	准教授	白石 崇人 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教師・保育者論 ※ 教育の思想と歴史 教育の制度と経営 道徳教育の理論と方法 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	橋村 勝明 (50) <平成31年4月> 博士(文学)
		教科の学び(国語) ※ 言葉とコミュニケーション
専	教授	村上 典章 (63) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(社会) 社会科教育法 生活科教育法 教科の学び(生活) 社会科教育法演習 生活科教育法演習 教材の研究と開発(社会) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 日本国憲法 ※
専	教授	森 哲之 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(国語) ※ 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ
専	准教授	猪川 優子 (45) <平成31年4月> 博士(文学)
		学習指導と学校図書館
専	准教授	上利 学 (53) <平成31年4月> 修士(文学)
		英語基礎演習 英語学概論
専	准教授	上村 加奈 (54) <平成31年4月> 修士(教育学)
		保育・教育課程論 ※ 保育内容の指導法(言葉) ※ 保育内容総論 ※ 乳児保育論 ※ 乳児保育 保育実習Ⅰ(保育所) 教育実習Ⅰ ※ 教材の研究と開発(言葉) ※ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	教授	黒木 晶子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)
		日本語学概論 子どもと保育内容(言葉)
専	准教授	三田 幸司 (54) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教科の学び(理科) ※ 生活科教育法 教科の学び(生活) 理科教育法 生活科教育法演習 理科教育法演習 教材の研究と開発(理科) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※ くらしと自然
専	准教授	庄(小川) ゆかり (53) <平成31年4月> 博士(学術)
		教育方法学(幼・小) ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 メディアと社会 図書館概論 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス演習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館
専	准教授	白石 崇人 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教師・保育者論 ※ 教育の思想と歴史(幼・小) 教育の制度と経営(幼・小) 道徳教育の理論と方法(小) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	橋村 勝明 (51) <平成31年4月> 博士(文学)
		教科の学び(国語) ※ 言葉とコミュニケーション
専	教授	村上 典章 (64) <平成31年4月> 修士(教育学)
		児童の理解 学校教育の体験活動(小) 教科の学び(社会) 社会科教育法 生活科教育法 教科の学び(生活) 社会科教育法演習 生活科教育法演習 教材の研究と開発(社会) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	教授	森 哲之 (51) <平成31年4月> 修士(教育学)
		野外活動 教科の学び(国語) ※ 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ
専	准教授	猪川 優子 (46) <平成31年4月> 博士(文学)
		学習指導と学校図書館
専	准教授	上利 学 (54) <平成31年4月> 修士(文学)
		英語基礎演習 英語学概論
専	准教授	上村 加奈 (55) <平成31年4月> 修士(教育学)
		幼児の理解 保育・教育課程論 ※ 幼児教育の体験活動 保育内容の指導法(言葉) ※ 保育内容総論 ※ 乳児保育論 ※ 乳児保育 保育実習Ⅰ(保育所) 教育実習Ⅰ ※ 教材の研究と開発(言葉) ※ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	教授	黒木 晶子 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)
		日本語学概論 子どもと保育内容(言葉)
専	准教授	三田 幸司 (55) <平成31年4月> 博士(教育学)
		児童の理解 教科の学び(理科) ※ 学校教育の体験活動(小) 生活科教育法 教科の学び(生活) 理科教育法 生活科教育法演習 理科教育法演習 教材の研究と開発(理科) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※ くらしと自然
専	准教授	庄(小川) ゆかり (54) <平成31年4月> 博士(学術)
		教育方法学(幼・小) ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 メディアと社会 図書館概論 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス演習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館
専	准教授	白石 崇人 (40) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教師・保育者論 ※ 教育の思想と歴史(幼・小) 教育の制度と経営(幼・小) 道徳教育の理論と方法(小) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	田中 崇 教 (43) <平成31年4月> 修士(教育学)
		保育原理 幼児教育の体験活動 教育実習Ⅱ 保育内容総論 ※ 教職実践演習(幼・小) 家庭支援論 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	新見 直 子 (40) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習 ※ 進路指導とキャリア教育 学校教育心理学 生徒指導論 ※ 子ども家庭支援の心理学 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	牧 亮 太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習 ※ 幼児の理解 学校教育相談 保育の心理学Ⅰ 子どもと保育内容(人間関係) 幼児教育の体験活動 保育内容の指導法(人間関係) 保育の心理学Ⅱ 教材の研究と開発(人間関係) 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅰ(施設) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	講師	大野内 愛 (34) <平成31年4月> 修士(教育学) ※
		教科の学び(音楽) 特別活動指導法 ※ 音楽科教育法 音楽科教育法演習 教材の研究と開発(音楽) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	講師	長 澤 希 (33) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(音楽) 子どもと保育内容(表現) ※ 教材の研究と開発(表現) ※ 保育の表現技術Ⅰ ※ 保育内容の指導法(表現) ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
兼任	教授	植 田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士 ※
		子ども家庭支援の心理学 ※ 子どもと社会
兼任	教授	木 村 敦 子 (62) <平成31年4月> 教育学修士
		保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※
兼任	教授	田 村 進 (49) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教科の学び(体育) ※
兼任	教授	森 下 要 治 (52) <平成31年4月> 文学修士 ※
		文学を読む意味
兼任	教授	石 井 宏 佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士
		運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ
兼任	教授	小 田 典 子 (60) <平成31年4月> 医学博士
		からだと健康
兼任	教授	河 村 大 造 (62) <平成31年4月> 博士(工学)
		食の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	田中 崇 教 (43) <平成31年4月> 修士(教育学)
		保育原理 幼児教育の体験活動 保育内容総論 ※ 教職実践演習(幼・小) 家庭支援論 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	新見 直 子 (40) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習(幼・小) ※ 進路指導とキャリア教育(小) 学校教育心理学 生徒指導論(小) ※ 子ども家庭支援の心理学 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	牧 亮 太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習(幼・小) ※ 幼児の理解 学校教育相談 保育の心理学Ⅰ 子どもと保育内容(人間関係) 幼児教育の体験活動 保育内容の指導法(人間関係) 保育の心理学Ⅱ 教材の研究と開発(人間関係) 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅰ(施設) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	講師	大野内 愛 (34) <平成31年4月> 修士(教育学) ※
		教科の学び(音楽) 音楽科教育法 音楽科教育法演習 教材の研究と開発(音楽) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	講師	長 澤 希 (33) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(音楽) 子どもと保育内容(表現) ※ 教材の研究と開発(表現) ※ 保育の表現技術Ⅰ ※ 保育内容の指導法(表現) ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
兼任	教授	植 田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士 ※
		子ども家庭支援の心理学 ※ 子どもと社会
兼任	教授	木 村 敦 子 (62) <平成31年4月> 教育学修士
		保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※
兼任	教授	田 村 進 (49) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教科の学び(体育) ※
兼任	教授	森 下 要 治 (52) <平成31年4月> 文学修士 ※
		文学を読む意味
兼任	教授	石 井 宏 佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士
		運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ
兼任	教授	小 田 典 子 (60) <平成31年4月> 医学博士
		からだと健康
兼任	教授	河 村 大 造 (62) <平成31年4月> 博士(工学)
		食の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	田中 崇 教 (44) <平成31年4月> 修士(教育学)
		保育原理 幼児教育の体験活動 教育実習Ⅱ 保育内容総論 ※ 教職実践演習(幼・小) 家庭支援論 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	新見 直 子 (41) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習(幼・小) ※ 進路指導とキャリア教育(小) 学校教育心理学 生徒指導論(小) ※ 子ども家庭支援の心理学 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	牧 亮 太 (38) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習(幼・小) ※ 幼児の理解 学校教育相談 保育の心理学Ⅰ 子どもと保育内容(人間関係) 幼児教育の体験活動 保育内容の指導法(人間関係) 保育の心理学Ⅱ 教材の研究と開発(人間関係) 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅰ(施設) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	講師	大野内 愛 (34) <平成31年4月> 修士(教育学) ※
		教科の学び(音楽) 音楽科教育法 音楽科教育法演習 教材の研究と開発(音楽) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	講師	長 澤 希 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(音楽) 音楽科教育法 音楽科教育法演習 教材の研究と開発(音楽) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	講師	長 澤 希 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(音楽) 音楽科教育法 音楽科教育法演習 教材の研究と開発(音楽) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
兼任	教授	植 田 智 (57) <平成31年4月> 文学修士 ※
		子ども家庭支援の心理学 ※ 子どもと社会
兼任	教授	木 村 敦 子 (63) <平成31年4月> 教育学修士
		保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※
兼任	教授	田 村 進 (50) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教科の学び(体育) ※
兼任	教授	森 下 要 治 (53) <平成31年4月> 文学修士 ※
		文学を読む意味
兼任	教授	石 井 宏 佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士
		運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ
兼任	教授	小 田 典 子 (61) <平成31年4月> 医学博士
		からだと健康
兼任	教授	河 村 大 造 (62) <平成31年4月> 博士(工学)
		食の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		黒川 知 則 (68) <平成31年4月> 薬学博士
		社会と生命科学
兼任 教授		田 頭 穂 積 (67) <平成31年4月> 文学修士※
		くらしの中の心理学
兼任 教授		藤 井 律 子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任 教授		豊 後 宏 記 (60) <平成31年4月> 文学修士
		大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 生涯学習概論 プレゼンテーション技法
兼任 教授		松 原 淳 一 (61) <平成31年4月> 法学士
		くらしと経済
兼任 教授		宮 崎 洋 一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)
		文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任 准教授		清 水 克 之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)
		社会福祉 児童家庭福祉 日本国憲法 ※ くらしと社会福祉
兼任 准教授		西 山 美 香 (55) <平成31年4月> 修士(保健学)※
		子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ
兼任 准教授		阿 武 久 美 子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)
		社会と生命科学
兼任 准教授		伊 藤 由 美 子 (51) <平成31年4月> 家政学士
		食生活と健康 ※
兼任 准教授		尾 崎 英 司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)
		環境の科学
兼任 准教授		清 淵 淳 (45) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		地域と社会
兼任 講師		塩 田 良 子 (34) <平成31年4月> 修士(人間文化学)
		子どもの食と栄養
兼任 講師		小 原 寿 美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)
		社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ コミュニケーションとプレゼンテーション ビジネス文書
兼任 講師		和 上 順 子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		黒川 知 則 (68) <平成31年4月> 薬学博士
		社会と生命科学
兼任 教授		田 頭 穂 積 (67) <平成31年4月> 文学修士※
		くらしの中の心理学
兼任 教授		藤 井 律 子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任 教授		豊 後 宏 記 (60) <平成31年4月> 文学修士
		大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ プレゼンテーション技法
兼任 教授		松 原 淳 一 (61) <平成31年4月> 法学士
		くらしと経済
兼任 教授		宮 崎 洋 一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)
		文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任 准教授		清 水 克 之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)
		社会福祉 児童家庭福祉 日本国憲法 ※ くらしと社会福祉
兼任 准教授		西 山 美 香 (55) <平成31年4月> 修士(保健学)※
		子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ
兼任 准教授		阿 武 久 美 子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)
		社会と生命科学
兼任 准教授		伊 藤 由 美 子 (51) <平成31年4月> 家政学士
		食生活と健康 ※
兼任 教授		尾 崎 英 司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)
		環境の科学
兼任 准教授		清 淵 淳 (45) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		地域と社会
兼任 講師		塩 田 良 子 (34) <平成31年4月> 修士(人間文化学)
		子どもの食と栄養
兼任 講師		小 原 寿 美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)
		社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ コミュニケーションとプレゼンテーション ビジネス文書
兼任 講師		和 上 順 子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		黒川 知 則 (69) <平成31年4月> 薬学博士
		社会と生命科学
兼任 教授		田 頭 穂 積 (68) <平成31年4月> 文学修士※
		くらしの中の心理学
兼任 教授		藤 井 律 子 (55) <平成31年4月> 博士(医学)
		異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任 教授		豊 後 宏 記 (61) <平成31年4月> 文学修士
		大学での学びⅠ 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ プレゼンテーション技法
兼任 教授		松 原 淳 一 (62) <平成31年4月> 法学士
		くらしと経済
兼任 教授		宮 崎 洋 一 (56) <平成31年4月> 博士(史学)
		文教学入門 人生論 大学での学びⅡ アジアと日本 読書者コミュニケーション技術 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任 教授		菅 井 直 也 (65) <令和2年4月> 教育学修士
		地域と社会
兼任 准教授		西 山 美 香 (56) <平成31年4月> 修士(保健学)※
		子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ
兼任 准教授		阿 武 久 美 子 (52) <平成31年4月> 博士(薬学)
		社会と生命科学
兼任 准教授		伊 藤 由 美 子 (52) <平成31年4月> 家政学士
		食生活と健康 ※
兼任 教授		尾 崎 英 司 (57) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)
		環境の科学
兼任 准教授		清 淵 淳 (46) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		地域と社会
兼任 准教授		宇 部 宮 千 賀 子 (61) <令和2年4月> 教育学士
		社会福祉 児童家庭福祉 社会的課題
兼任 講師		塩 田 良 子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)
		子どもの食と栄養
兼任 講師		小 原 寿 美 (52) <平成31年4月> 修士(文学)
		大学での学びⅠ 社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ コミュニケーションとプレゼンテーション ビジネス文書
兼任 講師		和 上 順 子 (48) <平成31年4月> 修士(文学)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名	
兼任 助教		戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)
	食生活と健康 ※	
兼任 講師		高橋 泰道 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)
	総合的な学習と探究「ラーニング」	
兼任 講師		西村 富美雄 (77) <平成31年4月> 教育学士
	教科の学び(図画工作) ※	
兼任 講師		吉田 裕午 (67) <平成31年4月> 理学修士
	教科の学び(理科)	
兼任 講師		大和多 幸子 (62) <平成31年4月> 教育学士
	教科の学び(体育) ※	
兼任 講師		枝川 泰子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		魚住 恵 (54) <平成31年4月> 博士(音楽)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		北林 聖子 (45) <平成31年4月> 修士(音楽)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		大城 要 (42) <平成31年4月> 修士(音楽)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		戸田 真理 (53) <平成31年4月> 芸術学士
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		宮里 智恵 (59) <令和2年4月> 博士(教育学)
	教科の学び(家庭) 家庭科教育法	
兼任 講師		善本 桂子 (65) <令和2年4月> 芸術学士
	保育の表現技術Ⅰ ※	
兼任 講師		藤田 由美子 (62) <令和3年4月> 修士(文学)
	保育の表現技術Ⅱ ※	
兼任 講師		岡本 礼子 (65) <令和3年4月> 学士(造形)
	保育の表現技術Ⅱ ※	
兼任 講師		酒井 珠江 (60) <令和4年4月> 学士(福祉経営学)
	家庭支援論 ※	
兼任 講師		若松 昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)
	インクルーシブ教育・保育	
兼任 講師		宮本 秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)
	特別支援教育	
兼任 講師		古田 善子 (71) <令和3年4月> 教育学士
	特別支援保育 ※	
兼任 講師		二宮 恵子 (40) <令和2年4月> 修士(音楽)
	保育内容の指導法(表現) ※	
兼任 講師		塚村 英幸 (72) <令和2年4月> 教育学士
	社会的養護 社会的養護内容	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名	
兼任 助教		戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)
	食生活と健康 ※	
兼任 講師		高橋 泰道 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)
	総合的な学習の時間の指導法(小)	
兼任 講師		西村 富美雄 (77) <平成31年4月> 教育学士
	教科の学び(図画工作) ※	
兼任 講師		吉田 裕午 (67) <平成31年4月> 理学修士
	教科の学び(理科)	
兼任 講師		大和多 幸子 (62) <平成31年4月> 教育学士
	教科の学び(体育) ※	
兼任 講師		枝川 泰子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		魚住 恵 (54) <平成31年4月> 博士(音楽)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		北林 聖子 (45) <平成31年4月> 修士(音楽)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		大城 要 (42) <平成31年4月> 修士(音楽)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		戸田 真理 (53) <平成31年4月> 芸術学士
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		宮里 智恵 (59) <令和2年4月> 博士(教育学)
	教科の学び(家庭) 家庭科教育法	
兼任 講師		善本 桂子 (65) <令和2年4月> 芸術学士
	保育の表現技術Ⅰ ※ 子どもと保育内容(表現) ※	
兼任 講師		藤田 由美子 (62) <令和3年4月> 修士(文学)
	保育の表現技術Ⅱ ※	
兼任 講師		岡本 礼子 (65) <令和3年4月> 学士(造形)
	保育の表現技術Ⅱ ※	
兼任 講師		酒井 珠江 (60) <令和4年4月> 学士(福祉経営学)
	家庭支援論 ※	
兼任 講師		若松 昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)
	インクルーシブ教育・保育	
兼任 講師		宮本 秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)
	特別支援教育(幼・小)	
兼任 講師		古田 善子 (71) <令和3年4月> 教育学士
	特別支援保育 ※	
兼任 講師		二宮 恵子 (40) <令和2年4月> 修士(音楽)
	保育内容の指導法(表現) ※	
兼任 講師		塚村 英幸 (72) <令和2年4月> 教育学士
	社会的養護 社会的養護内容	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名	
兼任 助教		戸松 美紀子 (36) <平成31年4月> 修士(人間文化学)
	食生活と健康 ※	
兼任 講師		高橋 泰道 (61) <令和3年4月> 修士(教育学)
	総合的な学習の時間の指導法(小)	
兼任 講師		西村 富美雄 (78) <平成31年4月> 教育学士
	教科の学び(図画工作) ※	
兼任 講師		大和多 幸子 (63) <平成31年4月> 教育学士
	教科の学び(体育) ※	
兼任 講師		枝川 泰子 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		魚住 恵 (55) <平成31年4月> 博士(音楽)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		北林 聖子 (46) <平成31年4月> 修士(音楽)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		大城 要 (43) <平成31年4月> 修士(音楽)
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		戸田 真理 (54) <平成31年4月> 芸術学士
	教科の学び(音楽)	
兼任 講師		宮里 智恵 (60) <令和2年4月> 博士(教育学)
	教科の学び(家庭) 家庭科教育法	
兼任 講師		善本 桂子 (66) <令和2年4月> 芸術学士
	保育の表現技術Ⅰ ※ 子どもと保育内容(表現) ※	
兼任 講師		藤田 由美子 (63) <令和3年4月> 修士(文学)
	保育の表現技術Ⅱ ※	
兼任 講師		岡本 礼子 (66) <令和3年4月> 学士(造形)
	保育の表現技術Ⅱ ※	
兼任 講師		酒井 珠江 (61) <令和4年4月> 学士(福祉経営学)
	家庭支援論 ※	
兼任 講師		若松 昭彦 (63) <令和4年4月> 博士(教育学)
	インクルーシブ教育・保育	
兼任 講師		宮本 秀雄 (38) <令和2年4月> 博士(教育学)
	特別支援教育(幼・小)	
兼任 講師		古田 善子 (72) <令和3年4月> 教育学士
	特別支援保育 ※	
兼任 講師		二宮 恵子 (41) <令和2年4月> 修士(音楽)
	保育内容の指導法(表現) ※	
兼任 講師		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	石川 幸枝 (76) <令和4年4月> 短期大学士	保育相談支援
兼任	講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河野 美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	戸板 律子 (56) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ
兼任	講師	沼田 有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村 卓史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	桃井 しづ (65) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション技術
兼任	講師	山川 秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	くらしと法律
兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	森川 信夫 (65) <令和3年4月> 文学士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文学士	図書館サービス概論
兼任	講師	土肥 善嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	石川 幸枝 (76) <令和4年4月> 短期大学士	保育相談支援
兼任	講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河野 美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	戸板 律子 (56) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ
兼任	講師	沼田 有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村 卓史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	桃井 しづ (65) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション 技術※
兼任	講師	山川 秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	くらしと法律
兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	森川 信夫 (65) <令和3年4月> 文学士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文学士	図書館サービス概論
兼任	講師	土肥 善嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館
兼任	講師	山田 洋平 (39) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(幼・小)
兼任	講師	大後戸 一樹 (51) <令和2年4月> 博士(教育学)	体育科教育法 ※
兼任	講師	友定 寛治 (72) <令和3年4月> 教育学修士	教材の研究と開発(音楽) ※
兼任	講師	中井 悠加 (35) <令和2年4月> 博士(教育学)	保育内容の指導法(音楽) ※
兼任	講師	園 真智子 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論
兼任	講師	上土 麗 絵 (36) <平成31年4月> 学士(臨床心理学)	障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	大西 寛 雄 (72) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション 技術 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	石川 幸枝 (77) <令和4年4月> 短期大学士	保育相談支援
兼任	講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河野 美紗 (38) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	戸板 律子 (57) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ
兼任	講師	沼田 有史 (65) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村 卓史 (41) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	桃井 しづ (66) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション 技術※
兼任	講師	山川 秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	くらしと法律
兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	森川 信夫 (66) <令和3年4月> 文学士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (77) <令和3年4月> 文学士	図書館サービス概論
兼任	講師	土肥 善嗣 (78) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂免 寛 (70) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館
兼任	講師	山田 洋平 (39) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(幼・小)
兼任	講師	大後戸 一樹 (52) <令和2年4月> 博士(教育学)	体育科教育法 ※
兼任	講師	友定 寛治 (73) <令和3年4月> 教育学修士	教材の研究と開発(音楽) ※
兼任	講師	中井 悠加 (36) <令和2年4月> 博士(教育学)	保育内容の指導法(音楽) ※
兼任	講師	園 真智子 (35) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論
兼任	講師	上土 麗 絵 (36) <平成31年4月> 学士(臨床心理学)	障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	大西 寛 雄 (72) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション 技術 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	川本 忠夫 (69) <平成31年4月> ろう学校高等部卒 障害者コミュニケーション 技術 ※			
兼任	講師	春田 明子 (67) <平成31年4月> ろう学校高等部卒 障害者コミュニケーション 技術 ※			
兼任	講師	山本 和幸 (60) <平成31年4月> 修士 障害者コミュニケーション 技術 ※			
兼任	講師		兼任	講師	大野内 愛 (35) <平成31年4月> 修士(教育学) ※ 教科の学び(音楽)
兼任	講師		兼任	講師	高江 宏明 (57) <令和2年4月> 博士(教育学) 教科の学び(理科)
兼任	講師		兼任	講師	新宅 由三枝 (48) <令和2年4月> 準学士 社会的養護内容 ※
兼任	講師		兼任	講師	藤原 みどり (43) <令和2年4月> 学士(医療福祉学) 社会的養護内容 ※
兼任	講師		兼任	講師	吉村 光 (78) <令和2年4月> 経済学士 社会的養護内容 ※
兼任	講師		兼任	講師	浦川 暉二郎 (28) <令和2年4月> 修士(法学) 日本国憲法 くらしと法律
兼任	講師		兼任	講師	中本 康彦 (31) <令和2年4月> 修士(文学) 現代思想と哲学
兼任	講師		兼任	講師	河辺 幸雄 (70) <令和2年4月> 修士(法学) 人権問題の歩みとその展望
兼任	講師		兼任	講師	川和田 晶子 (52) <令和2年4月> 修士(文化史学) 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師		兼任	講師	尾崎 謙祐 (28) <令和2年4月> 修士(教育学) 運動学演習Ⅰ
兼任	講師		兼任	講師	村上 紀斗美 (37) <令和2年4月> 修士(教育学) 運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ
兼任	講師		兼任	講師	清水 和行 (59) <令和2年4月> 障害者コミュニケーション 技術 ※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、今崎浩教授（専任）担当科目「特別活動指導法※」を「特別活動指導法(小)※」に、今崎浩教授（専任）担当科目「生徒指導論※」を「生徒指導論(小)※」に変更 ・教職課程認定における指摘により、川西正行教授（専任）担当科目「体育科教育法」を「体育科教育法※」に変更 ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、杉山浩之教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学(幼・小)※」に変更 ・教職課程認定における指摘により杉山浩之教授（専任）担当科目「教育・保育のカリキュラムマネジメント※」を「保育・教育課程論※」に変更 ・教職課程認定における指摘により上村加奈准教授（専任）担当科目「教育・保育のカリキュラムマネジメント※」を「保育・教育課程論※」に、「保育内容の指導法(言葉)」を「保育内容の指導法(言葉)※」に、「教材の研究と開発(言葉)」を「教材の研究と開発(言葉)※」に変更 ・黒木晶子准教授（専任）が昇任したため、職名を教授に変更 ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、庄（小川）ゆかり准教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学(幼・小)※」に変更 ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、白石宗人准教授（専任）担当科目「教育の思想と歴史」を「教育の思想と歴史(幼・小)」に、「教育の制度と経営」を「教育の制度と経営(幼・小)」に、「道徳教育の理論と方法」を「道徳教育の理論と方法(小)」に変更 ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、新見直子准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習(幼・小)※」に、「進路指導とキャリア教育」を「進路指導とキャリア教育(小)」、 「生徒指導論※」を「生徒指導論(小)※」に変更 ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、牧亮太准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習(幼・小)※」に変更 ・河村大造教授（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・尾崎英司准教授（兼任） が昇任したため、職名を教授に変更 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Richard Terry Sugg講師（兼任）の授業科目に「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加 ・専任教員が辞退したため、黒飛知香講師（兼任） 担当授業科目「食の科学」を挿入 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Kelly Eileen Rose講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Julia Daley Amalia講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Tyler Montgomery講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Cristina Tong Malimban講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」 ・教職課程認定における指摘により高橋泰道講師（兼任）担当科目「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の時間の指導法」に変更 ・教職課程認定における指摘により善本桂子講師（兼任）担当科目に「子どもと保育内容(表現)※」を追加 ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、宮木秀雄講師（兼任）担当科目「特別支援教育」を「特別支援教育(幼・小)」に変更 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたこと及び授業方法の見直しにより、桃井しづ 講師担当科目「障害者コミュニケーション技術※」を「障害者コミュニケーション技術※」に変更 ・教職課程認定における指摘により山田洋平講師（兼任） 担当授業科目「学校教育相談(幼・小)」を挿入 ・教職課程認定における指摘により大後戸一樹講師（兼任） 担当授業科目「体育科教育法※」を挿入 ・教職課程認定における指摘により友定賢治講師（兼任） 担当授業科目「教材の研究と開発(言葉)※」を挿入 ・教職課程認定における指摘により中井悠加講師（兼任） 担当授業科目「保育内容の指導法(言葉)※」を挿入 ・教職課程認定における指摘により園員智子樹講師（兼任） 担当授業科目「生涯学習概論」を挿入 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、上土居理絵講師（兼任） 担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、大西章雄講師（兼任） 担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、川本忠夫講師（兼任） 担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、春田明子講師（兼任） 担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入 ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、山本和奈講師（兼任） 担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入

【令和2年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・指導体制の充実を図るため、村上典章教授（専任）の担当授業科目に「児童の理解」及び「学校教育の体験活動(小)」を追加 ・時間割の都合により、村上典章教授（専任）の担当授業科目から「日本国憲法※」を削除 ・指導体制の充実を図るため、森哲之教授（専任）の担当授業科目に「野外活動」を追加 ・指導体制の充実を図るため、上村加奈准教授（専任）の担当授業科目に「幼児の理解」及び「幼児教育の体験活動」を追加 ・指導体制の充実を図るため、三田幸司准教授（専任）の担当授業科目に「児童の理解」及び「学校教育の体験活動(小)」を追加 ・大野内愛講師（専任） 辞任により専任教員表から削除 ・専任教員辞任により、長澤希講師（専任）の担当授業科目に「音楽科教育法」「音楽科教育法演習」「教材の研究と開発(音楽)」を追加 ・石井宏佳教授（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・時間割の都合により、豊後宏記教授（兼任）担当授業科目から「アジアと日本」を削除 ・指導体制の充実を図るため、宮崎洋一教授（兼任）の担当授業科目に「大学での学びⅡ」を追加 ・授業内容の見直しのため、宮崎洋一教授（兼任）の担当授業科目に「障害者コミュニケーション技術」を追加 ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、菅井直也教授（兼任）に「地域と社会」を挿入 ・清水克之准教授（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・兼任教員辞任により、宇都宮千賀子准教授（兼任）、担当授業科目「社会福祉」「児童家庭福祉」「社会的養護」を挿入 ・指導体制の充実を図るため、小原寿美講師（兼任）の担当授業科目に「大学での学びⅠ」を追加 ・担当教員の変更のため、Richard Terry Sugg講師（兼任）の担当授業科目から「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を削除 ・担当教員の変更のため、Gary Cook Graham講師（兼任）の担当授業科目から「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を削除 ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Renaud Jonathan Davies講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加 ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加 ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Julia Daley Amalia講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加 ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Tyler Montgomery講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加 ・指導体制の充実を図るため、小川雅史講師（兼任）、担当授業科目「学校教育の体験活動(小)」を挿入 ・兼任教員辞任により、棚田裕二講師（兼任）、担当授業科目「くらしと社会福祉」を挿入 ・指導体制の充実を図るため、Craig Anthony Nevitt講師（兼任）担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を挿入 ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Lyndon Lehde講師（兼任）担当授業科目「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を挿入 ・吉田裕午講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・塚村英幸講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・衛藤吉則講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・山川秀道講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・山口聰講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・上土居理絵講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・大西章雄講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・川本忠夫講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・春田明子講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・山本和奈講師（兼任） 辞任により担当教員表から削除 ・大野内愛講師（専任） 辞任により兼任教員として担当授業科目「教科の学び(音楽)」を挿入 ・兼任教員辞任により、鹿江宏明講師（兼任）、担当授業科目「教科の学び(理科)」を挿入 ・兼任教員辞任により、新宅由三枝講師（兼任）、担当授業科目「社会的養護内容※」を挿入 ・兼任教員辞任により、藤原みどり講師（兼任）、担当授業科目「社会的養護内容※」を挿入 ・兼任教員辞任により、吉村光講師（兼任）、担当授業科目「社会的養護内容※」を挿入 ・専任教員の時間割の都合及び兼任教員辞任により、浦川源二郎講師（兼任）、担当授業科目「日本国憲法」「くらしと法律」を挿入 ・兼任教員辞任により、中本慶彦講師（兼任）、担当授業科目「現代思想と哲学」を挿入 ・兼任教員辞任により、河辺幸雄講師（兼任）、担当授業科目「人権問題の歩みとその展望」を挿入 ・クラス数を増やす必要が生じたため、川和田晶子講師（兼任）、担当授業科目「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を挿入 ・兼任教員辞任により、尾崎雄祐講師（兼任）、担当授業科目「運動学演習Ⅰ」を挿入 ・兼任教員辞任により、村上妃斗美講師（兼任）、担当授業科目「運動学演習Ⅰ」「運動学演習Ⅲ」「運動学演習Ⅳ」を挿入 ・授業内容の見直しのため、清水和行講師（兼任）、担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入

(注) ・ 変更内容を簡易書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更可設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、
 大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
11	10	2	0	23	1	12	9	1	0	22	1
(10)	(10)	(2)	(0)	(23)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
12	9	1	0	22	1	12	9	2	0	23	1
[1]	[Δ1]	[Δ1]	[0]	[Δ1]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	2 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{22}{23} = \boxed{95.65} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{22} = \boxed{9.09} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
2	講師	大野内 愛	R2.3	選択	教科の学び（音楽）	②	R2.3.31 他大学へ転任のため辞任（2）
				選択	音楽科教育法	①	
				選択	音楽科教育法演習	①	
				選択	教材の研究と開発（音楽）	①	
				必修	教育学研究Ⅰ	①	
				必修	教育学研究Ⅱ	①	
				必修	教育学研究Ⅲ	①	
				必修	教育学研究Ⅳ	①	
必修	卒業研究	①					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
1	人	必修	5	科目	必修	5	科目
		選択	4	科目	選択	3	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	8	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
1	人	必修	5	科目	必修	5	科目
		選択	4	科目	選択	3	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	8	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{23} = 4.34 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員交代(③-②)については、当該教員が担当予定であった9科目のうち8科目を他の専任教員で分担して担当し、残りの1科目については当該教員が兼任教員として担当することとした。このため、学生の履修及び指導上の不都合は生じていない。なお、教員の交代については、年度当初の学年別の履修ガイダンスの際に、学科長、チューター及び教務委員等から学生に直接周知している。また、学内ポータルサイトにシラバスを掲載して事前の周知も行っており、履修登録等の混乱は生じていない。今後は、各科目の教育内容及び水準の維持・向上及び当該科目の後任となった専任教員の負担軽減のために、今年度中に必要な教員補充を行うこととしている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	該当なし	該当なし	該当なし

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学部 教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的として、高等教育研究センターを設置し、目的を達成のための具体的事項は、学長補佐1名を含む教員9名と事務職員3名（令和2年度）で構成する運営委員会において検討・審議を行っている。

(広島文教大学高等教育研究センター規程 第1条及び第2条)

第1条 この規程は、学校法人武田学園組織規程第14条第2項の規定に基づき、広島文教大学高等教育研究センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 センターは、本学における教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的とする。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

高等教育研究センター運営委員会は、令和元年度は12回開催し、毎回、ほぼ全員の委員が出席している。

c 委員会の審議事項等

高等教育研究センター運営委員会審議事項（広島文教大学高等教育研究センター運営委員会規程第2条）

(1) 広島文教大学高等教育研究センター（以下「センター」という。）の業務及び運営に関すること。

(2) その他センターに関し必要な事項に関すること。

広島文教大学高等教育研究センターの業務（広島文教大学高等教育研究センター規程第3条）

(1) 高等教育に係る調査及び研究に関すること。

(2) 高等教育の質保証に係る支援及び推進に関すること。

(3) 高等教育に関する情報の収集及び分析に関すること。

(4) 情報の公開に関すること。

(5) 将来構想の企画・立案に関すること。

(6) ファカルティ・デベロップメントに関すること。

(7) センター刊行物の編集及び刊行に関すること。

(8) 研究倫理に関すること。

(9) その他、センターの目的を達成するために必要な業務

② 実施状況

a 実施内容

<令和元年度実績>

1. 公開授業（教員相互の授業参観）の実施
2. FD・SD研修会の実施
3. 広島文教大学紀要の発行
4. 広島文教大学高等教育研究の発行
5. 「新任教員研修プログラム」の実施

b 実施方法

1. 公開授業（教員相互の授業参観）

学生による授業評価アンケートの結果に基づいて、評価の高い授業を前・後期それぞれ5科目ずつ公開授業対象科目として決定し、教職員に周知している。

2. FD・SD研修会

毎回の研修会について、高等教育研究センター運営委員会でテーマを設定し、学内から教員、事務職員を問わず適任者を講師として選出・決定して実施している。

3. 広島文教大学紀要の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準と教員の研究能力の維持向上を図っている。

4. 広島文教大学高等教育研究の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準と教員の研究能力の維持向上を図っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 公開授業（教員相互の授業参観）

(1) 前期（5月第4週目—7月第1週目）

5科目の公開授業を実施し、出席参加者の総数は33名、アンケートの回答は21名

(2) 後期（12月第2週目—第3週目）

5科目の公開授業を実施し、出席参観者の総数は36名、アンケートの回答は14名

※アンケート回答では総じて他の授業を参観して自身の授業改善の参考になったとの意見が多数寄せられた

2. FD・SD研修会

夏期（9月12日、13日）：2日間にわたり、分科会では6講座、全体会では3講座を実施（参加者74名）

※冬期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、延期した

3. 広島文教大学紀要

教員の研究活動支援促進として、広島文教大学紀要54巻を発行し、7編の原著論文を掲載

4. 広島文教大学高等教育研究

教員の研究活動支援促進として、広島文教大学高等教育研究第6巻を発行し、4編の原著論文を掲載

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員の資質の維持向上を目的とするFD・SD活動のうち、「1. 公開授業」及び「2. FD・SD研修会」については、実施後に参加者へのアンケート調査を行っている。公開授業については、参加者のFDの機会とするとともに、授業を公開した教員にアンケート調査結果をフィードバックして、授業者・参観者双方の資質向上の機会となるように図っている。また、FD・SD研修会については、開催した各講座のプレゼンテーション資料のうちで公開可能なものを学内ポータルサイトに掲載し、全教職員の情報の共有と資質向上に資するよう、配慮している。

また、「3. 広島文教大学紀要」及び「4. 広島文教大学高等教育研究」には、理論的研究だけでなく、教育実践報告や学修者の実態に関する調査結果等を積極的に掲載して教職員に配付し、教員の資質の維持向上方策の一助としている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1. 学生による授業評価アンケート（前・後期の2回実施）

前期は7月から8月、後期は1月から3月を回答期間として実施

2. 学修状況調査（後期）

1-3月を回答期間として実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果は、授業科目ごとの集計結果とともに、教養教育科目、専門教育科目（学科別）及び教職科目ごとにも集計され、学内ポータルサイトで公開されており、教職員や学生が自由に閲覧できる。
また、アンケートの結果、学生による評価の高かった授業科目は、翌年度に公開授業（教員相互の授業参観）の対象科目として公開されている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。

併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教育学部教育学科では、「教育学・保育学分野に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付け、理論と実践の関係について理解した上で総合的に実践できる応用能力の修得に向けた教育を行うこと」及び「学校や家庭・地域における教育・保育を主体的に創造する能力と態度を身に付けた幅広い職業人を育成することにより、地域社会への貢献を目指すこと」を教育研究上の目的とし、「教育に関する専門的な知識や技能を修得し、主体性と協同性を持った逞しい実践力のある人材」を育成することを目標として、設置の趣旨・目的に謳っている。今日の学校教育の現場における課題は、いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の課題対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、ICT機器の活用、校種間連携の推進など、複雑化・多様化の様相を呈している。また、地域社会のニーズとして、知識や教育技術において秀でた良質の教員を供給することが求められてもいる。このような学校教育の現状や地域社会の要請に鑑み、教育研究上の目的及び人材育成目標の実現・達成に向けて、引き続き教育・研究活動を推進する。

なお、開設当初からの本学科への志願者数は、入学定員150名に対して初年度（令和元年度）1,230名（志願倍率8.2倍）、開設2年目（令和2年度）は1,121名（志願倍率7.47倍）となり、これは本学科の設置の趣旨・目的等が社会的要請に十分応えうるものであることを示している。今後も、本学科の特色ある教育の充実に努め、その取り組みと成果を学外に対して積極的に発信し、志願者の拡大・維持に努めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・大学機関別認証評価受審結果（令和2年3月認定）の公表とともに自己点検評価書を令和2年4月に公表

b 公表方法

- ・大学ホームページ上で公表

③ 認証評価を受ける計画

- ・公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を令和元年度に受審し、次回は令和8年度に受審予定

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトにて公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人武田学園

(2) 大学名

広島文教大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒731-0295

広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タケダヨシテル) 武田義輝 (平成25年4月)		
学長	(モリシタヨウジ) 森下要治 (平成29年4月)		
学部長	(オカトシミチ) 岡利道 (平成31年4月)		
学科長等	(イマザキヒロシ) 今崎浩 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
 令和2年度に報告する内容 → (2)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。）
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
教育学部	教育学・保育学関係	年	人	年次	人	
教育学科		4	150	人	600	
初等教育専攻		4	150		600	
中等教育専攻		4	120		480	
学士（教育学）		4	30		120	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	30 (—) [—]	— (—) [—]	30 (—) [—]	— (—) [—]	1.03 倍	一倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	374 (—) [—]	— (—) [—]	399 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	373 (—) [—]	— (—) [—]	395 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	119 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	30 (—) [—]	— (—) [—]	32 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	1.00	—	1.06	—			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	30 [-] ()	- [-] ()	32 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	28 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/				- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	30 [-] (-)	- [-] (-)	60 [-] (-)	- [-] (-)

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	30 人	2 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(2人)
令和2年度	32 人	0 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合計		2 人		2 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{30} = \boxed{6.66} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{32} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学部 教育学科 中等教育専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史	1前	2			1						
	発達と学習	1前	2			2						
	日本語学概論	1前	2			1						
	英語基礎演習	2前	2			1	1					
	教師・保育者論	1後	2			1	1					
	教育方法学	1後	2			1	1					
	生徒の理解	1後	1			1						
	野外活動	2前	2			1						
	教育の制度と経営	2後	2				1					
	特別支援教育	2後	2									1
計(10科目)	-	19	0	0	4	6	0	0	0	0	1	
専門教育科目	A 教育・保育の基礎的理解	2前	2			1	1					
	a 道徳教育の理論と方法	2後	2			1	1					
	特別活動指導法	2後	2			1	1					
	生徒指導論	3前	2			1	1					
	学校教育相談	3前	2			1	1					
	総合的な学習とアクティブラーニング	3後	2								1	
	進路指導とキャリア教育	3後	2			1						
展開科目	b 学校間連携教育	4前	2			2						
	インクルーシブ教育・保育	4前	2								1	
	学校教育心理学	4前	2			1						
小計(10科目)	-	2	18	0	2	4	1	0	0	0	2	
B 領域・教科の専門的事項と指導法	e 日本語学演習	1後	2			1						
	日本語の文字と語彙	2前	2			1						
	日本語のしくみ	2後	2			1						
	日本語の音声	3後	2			1						
	日本語文章論	4前	2			1						
	日本語学講義	4後	2			1						
	表象文化と日本文学	3前	2			1	1					
	こどもと文学	3後	2			1						
	日本文学講義	4前	2			1						
	日本文学概論	1前	2			1						
	日本文学演習	1後	2			1						
	日本文学の歴史	2前	2			1						
	漢文学概論	3前	2			2						1
	漢文学演習	3後	2			2						2
	書写書道演習	1前	2			1						
	f 教材の研究と開発(中等国語)	3前	2			2						
	中等国語科教育法Ⅰ	2前	2			1	2					
	中等国語科教育法Ⅱ	2後	2			1	2					
	中等国語科教育法Ⅲ	3前	2			1	1					
中等国語科教育法演習	3後	2			1	1						
g Reading StrategiesⅠ	1前	2									1	
Reading StrategiesⅡ	1後	2									1	
Writing StrategiesⅠ	1前	2									1	
Writing StrategiesⅡ	1後	2									1	
英語学概論	2前	2			1							
英語の音声	3前	2			1							
英語ディスコース研究	3後	2			1							
英語学研究	4前	2			1							
英語文学概論	2前	2			1							
英語文学演習	3後	2			1							
英語文学研究	4前	2			1							
英語文学史	2後	2			1							

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史(中・高)	1前	2				1					
	発達と学習(中・高)	1前	2				2					
	教師論(中・高)	1後	2				1	1				1
	教育方法学(中・高)	1後	2									
	生徒の理解	1後	1				3					
	野外活動	2前	2				2					
	教育の制度と経営(中・高)	2後	2				1					
	特別支援教育(中・高)	2後	2									1
	計(8科目)	-	15	0	0	3	3	0	0	0	0	2
	専門教育科目	A 教育・保育の基礎的理解	2前	2			1					
a 道徳教育の理論と方法(中)		2後	2			1						
特別活動指導法(中・高)		2後	2			1						1
生徒指導論(中・高)		3前	2			1	1					
学校教育相談(中・高)		3前	2			1						1
総合的な学習の時間の指導法(中・高)		3後	2									1
進路指導とキャリア教育(中・高)		3後	2			1						
展開科目	b 学校間連携教育	4前	2			2						
	インクルーシブ教育・保育	4前	2								1	
	学校教育心理学	4前	2			1						
小計(10科目)	-	14	6	0	2	2	0	0	0	0	4	
B 領域・教科の専門的事項と指導法	e 日本語学概論	1前	2			1						
	日本語学基礎演習	1後	2			1						
	日本語の歴史	2後	2			1						
	日本語の音声	3後	2			1						
	日本語の文字と語彙	2前	2			1						
	日本語のしくみ	3前	2			1						
	日本語文章論	3後	2			1						
	日本語学演習	3後	2			1						
	日本語学講義	4前	2			1						
	日本文学概論	1前	2					1				
	日本文学基礎演習	1後	2			1		1				
	日本文学の歴史	2前	2			1		1				
	表象文化と日本文学	3前	2			1	1					
	日本語文化実地演習	2後	2			1		1				
	こどもと文学	3後	2			1						
	日本文学演習	3前	2			1		1				
	日本文学講義	4前	2			1		1				
	漢文学概論	3前	2									1
	漢文学演習	3後	2									2
書写書道演習	1前	2			1							
f 教材の研究と開発(中等国語)	3前	2			2							
中等国語科教育法Ⅰ	2前	2			3	1						
中等国語科教育法Ⅱ	2後	2			3	1						
中等国語科教育法Ⅲ	3前	2			1	1						
中等国語科教育法演習	3後	2			1	1						
g Reading StrategiesⅠ	1前	2									1	
Reading StrategiesⅡ	1後	2									1	
Writing StrategiesⅠ	1前	2									1	
Writing StrategiesⅡ	1後	2									1	
英語学概論	2前	2				1						
英語基礎演習	2前	2			1	1						
英語の音声	3前	2			1							
英語ディスコース研究	3後	2			1							
英語学研究	4前	2			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	Basic English Communication I	1前	2								3	
	Basic English Communication II	1後	2								3	
	International Communication Strategies I	3前	2								1	
	International Communication Strategies II	3後	2								1	
	English for Education	4前	2								1	
	Academic English	4後	2								1	
	異文化理解	2後	2		2							
	英語科・外国語活動の学び	1後	2		2							
	教材の研究と開発(中等英語)	3前	2		1							
	h 中等英語科教育法 I	2前	2		1							
	中等英語科教育法 II	2後	2		1							
	中等英語科教育法 III	3前	2		1							
	中等英語科教育法演習	3後	2		1							
	小計(45科目)		-	0	90	0	6	3	0	0	0	9
計(55科目)		-	2	108	0	8	7	1	0	0	11	
実践科目	学校教育の体験活動(中・高)	2通	2			1						
	教育実習Ⅳ	3後	2			1	1					
	教育実習Ⅴ	4前	2			1	1					
	教育実習Ⅵ	4前	2			1	1					
	教職実践演習(中・高)	4後	2			1						
計(5科目)		-	0	10	0	1	1	0	0	0	0	
探求科目	教育学入門	1前・1後	2			1	1					
	教育学研究Ⅰ	2前	2			4	3					
	教育学研究Ⅱ	2後	2			4	3					
	教育学研究Ⅲ	3前	2			4	3					
	教育学研究Ⅳ	3後	2			4	3					
卒業研究	4前・4後	4			4	3						
計(6科目)		-	14	0	0	4	4	0	0	0	0	
専門教育科目合計(76科目)		-	35	118	0	8	8	1	0	0	12	
人文学科目群	文教学入門	1前	2								1	
	日本国憲法	1後	2			1					1	
	人生論	3前	2								1	
	大学での学びⅠ	1前	1								1	
	大学での学びⅡ	1後	1			1	1				1	
	小計(5科目)		-	4	4	0	2	1	0	0	0	3
	A	現代思想と哲学	2～3	2								2
		日本とヒロシマの歴史	2～3	2								1
		文学を読む意味	2～3	2								1
		言葉とコミュニケーション	2～3	2			1					
		欧米と日本	2～3	2			1					
		アジアと日本	2～3	2								2
		社会とジェンダー	2～3	2								1
	B	くらしの中の心理学	2～3	2								1
		くらしと経済	2～3	2								1
		くらしと法律	2～3	2								1
		くらしと社会福祉	2～3	2								1
地域と社会		2～3	2								1	
子どもと社会		2～3	2								1	
人権問題の歩みとその展望		2～3	2								1	
C	社会と生命科学	2～3	2								2	
	食の科学	2～3	2								1	
	からだと健康	2～3	2								2	
	くらしと自然	2～3	2			1					1	
	環境の科学	2～3	2						1		1	
	食生活と健康	2～3	2								2	
	メディアと社会	2～3	2				1					
小計(21科目)		-	0	42	0	2	2	0	0	0	22	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	英語文学概論	2前	2			1						
	英語文学演習	3後	2			1						
	英語文学研究	4前	2			1						
	英語文学史	2後	2			1						
	Basic English Communication I	1前	2								3	
	Basic English Communication II	1後	2								3	
	International Communication Strategies I	3前	2								1	
	International Communication Strategies II	3後	2								1	
	English for Education	4前	2					1				
	Academic English	4前	2								1	
	異文化理解	2後	2			2						
	英語科・外国語活動の学び	1後	2			2						
	教材の研究と開発(中等英語)	3前	2			1						
	h 中等英語科教育法 I	2前	2			1						
中等英語科教育法 II	2後	2			1							
中等英語科教育法 III	3前	2			1							
中等英語科教育法演習	3後	2			1							
小計(61科目)		-	4	98	0	7	2	0	0	0	7	
計(61科目)		-	18	104	0	9	4	0	0	0	11	
実践科目	学校教育の体験活動(中・高)	2通	2			3						
	教育実習Ⅳ	3後	2			2						
	教育実習Ⅴ	4前	2			2						
	教育実習Ⅵ	4前	2			2						
	教職実践演習(中・高)	4後	2			1						
計(5科目)		-	0	10	0	2	0	0	0	0	0	
探求科目	教育学入門	1前・1後	2			1	1					
	教育学研究Ⅰ	2前	2			5	2					
	教育学研究Ⅱ	2後	2			5	2					
	教育学研究Ⅲ	3前	2			5	2					
	教育学研究Ⅳ	3後	2			5	2					
卒業研究	4前・4後	4			5	2						
計(6科目)		-	14	0	0	5	3	0	0	0	0	
専門教育科目合計(80科目)		-	47	114	0	9	5	0	0	0	13	
人文学科目群	文教学入門	1前	2								1	
	日本国憲法	1後	2								1	
	人生論	3前	2								1	
	大学での学びⅠ	1前	1								2	
	大学での学びⅡ	1後	1			1	1				1	
	小計(5科目)		-	4	4	0	2	1	0	0	0	4
	A	現代思想と哲学	2～3	2								2
		日本とヒロシマの歴史	2～3	2								1
		文学を読む意味	2～3	2								1
		言葉とコミュニケーション	2～3	2			1					
		欧米と日本	2～3	2			1					
		アジアと日本	2～3	2								1
		社会とジェンダー	2～3	2								1
	B	くらしの中の心理学	2～3	2								1
		くらしと経済	2～3	2								1
		くらしと法律	2～3	2								1
		くらしと社会福祉	2～3	2								1
地域と社会		2～3	2								2	
子どもと社会		2～3	2								1	
人権問題の歩みとその展望		2～3	2								1	
C	社会と生命科学	2～3	2								2	
	食の科学	2～3	2								1	
	からだと健康	2～3	2								2	
	くらしと自然	2～3	2					1			1	
	環境の科学	2～3	2								1	
	食生活と健康	2～3	2								2	
	メディアと社会	2～3	2				1					
小計(21科目)		-	0	42	0	2	2	0	0	0	22	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
スキル教育科目群	国際教育系 I	英語コミュニケーション I	1前	2							2	
	英語コミュニケーション II	1後	2								2	
	英語コミュニケーション III	2前	2								2	
	英語コミュニケーション IV	2後	2								2	
	イングリッシュワークショップ I	イングリッシュワークショップ I	3前	1								1
		イングリッシュワークショップ II	3後	1								1
		イングリッシュワークショップ III	4前	1								1
		イングリッシュワークショップ IV	4後	1								1
	国際教育系 II	フランスの言葉と文化 I	2前	2								1
		フランスの言葉と文化 II	2後	2								1
		フランスの言葉と文化 III	3前	2								1
		フランスの言葉と文化 IV	3後	2								1
		中国の言葉と文化 I	2前	2								1
		中国の言葉と文化 II	2後	2								1
		中国の言葉と文化 III	3前	2								1
		中国の言葉と文化 IV	3後	2								1
	異文化への理解 I	異文化への理解 I	2前	2								1
		異文化への理解 II	2後	2								1
	情報教育系	情報処理演習 I	1前	1								2
		情報処理演習 II	1後	1								2
情報処理演習 III		2前	2								1	
情報処理演習 IV		2後	2								1	
生涯教育系	運動学演習 I	1前	1		1						1	
	運動学演習 II	1-2-3-4後	1								1	
	運動学演習 III	2前	1								1	
	運動学演習 IV	2後	1								1	
	生涯学習概論	1後	2								1	
	健康とスポーツ	1後	1								1	
	制作技法演習 I	3-4前	1		1						1	
制作技法演習 II	3-4後	1		1						1		
障害者コミュニケーション技術	1前	1									1	
小計(31科目)		-	6	42	0	2	0	0	0	0	11	
キャリア形成科目群	キャリア形成概論 I	1後	2								1	
	キャリア形成概論 II	2前	2								1	
	インターンシップ	2前	2								1	
	プレゼンテーション技法	2後	2								1	
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前	2								1	
	ビジネス文書	3後	2								1	
小計(6科目)		-	0	12	0	0	0	0	0	0	2	
教養教育科目 合計(63科目)		-	10	100	0	6	2	0	0	0	31	
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					1
		図書館情報技術論	4前		2		1					1
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					1
		読書と豊かな人間性	3後		2		1					1
		情報サービス演習	4前		2		1					1
	乙群	図書館サービス特論	4後		1		1					1
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)		-	0	0	24	1	1	0	0	0	5	
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1					1	
	学習指導と学校図書館	2後		2		1					1	
	読書と豊かな人間性	3後		2		1					1	
	情報メディアの活用	3前		2		1					1	
司書教諭科目 合計(5科目)		-	0	0	10	1	2	0	0	0	1	
総合計(157科目)		-	42	218	34	10	9	1	0	0	42	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
スキル教育科目群	国際教育系 I	英語コミュニケーション I	1前	2							8	
	英語コミュニケーション II	1後	2								8	
	英語コミュニケーション III	2前		2							6	
	英語コミュニケーション IV	2後		2							6	
	イングリッシュワークショップ I	イングリッシュワークショップ I	3前		1							1
		イングリッシュワークショップ II	3後		1							1
		イングリッシュワークショップ III	4前		1							1
		イングリッシュワークショップ IV	4後		1							1
	国際教育系 II	フランスの言葉と文化 I	2前		2							1
		フランスの言葉と文化 II	2後		2							1
		フランスの言葉と文化 III	3前		2							1
		フランスの言葉と文化 IV	3後		2							1
		中国の言葉と文化 I	2前		2							1
		中国の言葉と文化 II	2後		2							1
		中国の言葉と文化 III	3前		2							1
		中国の言葉と文化 IV	3後		2							1
	異文化への理解 I	異文化への理解 I	2前		2							1
		異文化への理解 II	2後		2							1
	情報教育系	情報処理演習 I	1前		1							3
		情報処理演習 II	1後		1							3
情報処理演習 III		2前		2							1	
情報処理演習 IV		2後		2							1	
生涯教育系	運動学演習 I	1前		1		1					2	
	運動学演習 II	1-2-3-4後		1							1	
	運動学演習 III	2前		1							1	
	運動学演習 IV	2後		1							1	
	生涯学習概論	1後		2							1	
	健康とスポーツ	1後		1							1	
	制作技法演習 I	3-4前		1		1					1	
制作技法演習 II	3-4後		1		1					1		
障害者コミュニケーション技術	1前		1								3	
小計(31科目)		-	6	42	0	2	0	0	0	0	23	
キャリア形成科目群	キャリア形成概論 I	1後		2							1	
	キャリア形成概論 II	2前		2							1	
	インターンシップ	2前		2							1	
	プレゼンテーション技法	2後		2							1	
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前		2							1	
	ビジネス文書	3後		2							1	
小計(6科目)		-	0	12	0	0	0	0	0	0	2	
教養教育科目 合計(63科目)		-	10	100	0	6	2	0	0	0	44	
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					1
		図書館情報技術論	4前		2		1					1
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					1
		読書と豊かな人間性	3後		2		1					1
		情報サービス演習	4前		2		1					1
	乙群	図書館サービス特論	4後		1		1					1
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)		-	0	0	24	1	1	0	0	0	5	
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1					1	
	学習指導と学校図書館	2後		2		1					1	
	読書と豊かな人間性	3後		2		1					1	
	情報メディアの活用	3前		2		1					1	
司書教諭科目 合計(5科目)		-	0	0	10	1	2	0	0	0	1	
総合計(161科目)		-	57	214	34	11	10	2	0	0	53	

卒業要件及び履修方法
<p>【教養教育科目】</p> <p>① 人間学科目群から4単位以上</p> <p>② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上</p> <p>③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上</p> <p>④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上</p> <p>【専門教育科目】</p> <p>教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目19単位、展開科目・探究科目から必修科目16単位を修得し、教養教育科目・基礎科目・展開科目・実践科目から65単位以上、合計128単位以上修得すること。</p> <p>なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。</p> <p>【国語教育コース】</p> <p><中学校教諭一種免許状(国語)></p> <p>教育・保育のカリキュラムマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語学演習、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語の音声、日本文学演習、教材の研究と開発(中等国語)、中等国語科教育法Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習の全ての単位を修得し、さらに、日本語文庫論、日本語学講義、表象文化と日本文学、子どもと文学、日本文学講義のうち4単位以上を修得すること。</p> <p><高等学校教諭一種免許状(国語)></p> <p>上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法、書写書道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。</p> <p><中学校教諭二種免許状(英語)></p> <p>教育・保育のカリキュラムマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、英語学概論、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。</p> <p>【英語教育コース】</p> <p><中学校教諭一種免許状(英語)></p> <p>教育・保育のカリキュラムマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、英語学概論、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、英語の音声、英語ディスコース研究、英語学研究、英語学概論、英語学研究、英語文学史、教材の研究と開発(中等英語)、中等英語科教育法Ⅱ、同Ⅲ、中等英語科教育法演習の全ての単位を修得し、さらに、Reading StrategiesⅠ、同Ⅱ、Writing StrategiesⅠ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English CommunicationⅡ、International Communication StrategiesⅠ、同Ⅱ、English for Education, Academic Englishのうち2単位を修得すること。</p> <p><高等学校教諭一種免許状(英語)></p> <p>上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。</p> <p><中学校教諭二種免許状(国語)></p> <p>教育・保育のカリキュラムマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。</p> <p>【司書】</p> <p>司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。</p> <p>【司書教諭】</p> <p>司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。</p> <p>① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。</p> <p>② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。</p>

卒業要件及び履修方法
<p>【教養教育科目】</p> <p>① 人間学科目群から4単位以上</p> <p>② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上</p> <p>③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上</p> <p>④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上</p> <p>【専門教育科目】</p> <p>教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目15単位、展開科目・探究科目から必修科目32単位及び選択必修科目18単位を修得し、合計128単位以上修得すること。</p> <p>なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。</p> <p>【国語教育コース】</p> <p><中学校教諭一種免許状(国語)></p> <p>教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本語学基礎演習、日本語の歴史、日本語の音声、日本文学概論、日本文学基礎演習、日本文学の歴史、表象文化と日本文学、漢文学概論、書写書道演習、教材の研究と開発(中等国語)、中等国語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語文庫論のうち2単位、日本文化実地演習、こどもと文学のうち2単位を修得すること。</p> <p><高等学校教諭一種免許状(国語)></p> <p>上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法(中)、書写書道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。</p> <p><中学校教諭二種免許状(英語)></p> <p>教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語基礎演習、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。</p> <p>【英語教育コース】</p> <p><中学校教諭一種免許状(英語)></p> <p>教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語基礎演習、英語の音声、英語ディスコース研究、英語学研究、英語学概論、英語学演習、英語文学史、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、教材の研究と開発(中等英語)、中等英語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等英語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、Reading StrategiesⅠ、同Ⅱ、Writing StrategiesⅠ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English CommunicationⅡ、International Communication StrategiesⅠ、同Ⅱ、English for Education, Academic Englishのうち2単位を修得すること。</p> <p><高等学校教諭一種免許状(英語)></p> <p>上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法(中)及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。</p> <p><中学校教諭二種免許状(国語)></p> <p>教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。</p> <p>【司書】</p> <p>司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。</p> <p>【司書教諭】</p> <p>司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。</p> <p>① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。</p> <p>② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。</p>

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	教育の思想と歴史(中・高)	1前	2				1						
	発達と学習(中・高)	1前	2				2						
	教師論(中・高)	1後	2			1	1						
	教育方法学(中・高)	1後	2								1		
	生徒の理解	1後	1			1							
	野外活動	2前	2			1							
	教育の制度と経営(中・高)	2後	2				1						
	特別支援教育(中・高)	2後	2									1	
	計(8科目)	-	15	0	0	3	3	0	0	0	0	2	
	専門教育科目	教育課程論(中・高)	2前	2			1						
道徳教育の理論と方法(中)		2後	2				1						
特別活動指導法(中・高)		2後	2								1		
生徒指導論(中・高)		3前	2			1	1						
学校教育相談(中・高)		3前	2								1		
総合的な学習の時間の指導法(中・高)		3後	2								1		
道徳指導とキャリア教育(中・高)		3後	2				1						
展開科目		学校間連携教育	4前		2		2						
		インクルーシブ教育・保育	4前		2							1	
		学校教育心理学	4前		2			1					
小計(10科目)			-	14	6	0	2	2	0	0	0	4	
B 領域・教科の専門的事項と指導法	日本語学概論	1前	2			1							
	日本語学基礎演習	1後	2			1							
	日本語の歴史	2後	2			1							
	日本語の音声	3後	2			1							
	日本語の文字と語彙	2前	2			1							
	日本語のしくみ	3前	2			1							
	日本語文章論	3後	2			1							
	日本語学演習	3後	2			1							
	日本語学講義	4前	2			1							
	日本文学概論	1前	2				1						
	日本文学基礎演習	1後	2				1						
	日本文学の歴史	2前	2				1						
	表象文化と日本文学	3前	2			1	1						
	日本語文化実地演習	2後	2				1						
	こどもと文学	3後	2			1							
	日本文学演習	3前	2			2							
	日本文学講義	4前	2				1						
	漢文学概論	3前	2								1		
	漢文学演習	3後	2								2		
	書写書道演習	1前	2			1							
f	教材の研究と開発(中等国語)	3前	2			2							
	中等国語科教育法Ⅰ	2前	2			3	1						
	中等国語科教育法Ⅱ	2後	2			3	1						
	中等国語科教育法Ⅲ	3前	2			1	1						
	中等国語科教育法演習	3後	2			1	1						
g	Reading StrategiesⅠ	1前	2									1	
	Reading StrategiesⅡ	1後	2									1	
	Writing StrategiesⅠ	1前	2									1	
	Writing StrategiesⅡ	1後	2									1	
	英語学概論	2前	2				1						
	英語基礎演習	2前	2			1	1						
	英語の音声	3前	2				1						
	英語ディスコース研究	3後	2			1							
	英語学研究	4前	2				1						
	英語文学概論	2前	2			1							
	英語文学演習	3後	2			1							
	英語文学研究	4前	2			1							
	英語文学史	2後	2			1							
	Basic English CommunicationⅠ	1前	2									3	
	Basic English CommunicationⅡ	1後	2									3	
International Communication StrategiesⅠ	3前	2									1		
International Communication StrategiesⅡ	3後	2									1		
English for Education	4前	2				1							
Academic English	4前	2									1		
異文化理解	2後	2			2								
英語科・外国語活動の学び	1後	2			2								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
h	教材の研究と開発(中等英語)	3前		2		1							
	中等英語科教育法Ⅰ	2前		2		1							
	中等英語科教育法Ⅱ	2後		2		1							
	中等英語科教育法Ⅲ	3前		2		1							
	中等英語科教育法演習	3後		2		1							
	小計(51科目)	-	4	98	0	7	2	0	0	0	0	7	
計(61科目)			-	18	104	0	9	4	0	0	0	11	
実践科目	学校教育の体験活動(中・高)	2通		2		1							
	教育実習Ⅳ	3後		2		2							
	教育実習Ⅴ	4前		2		2							
	教育実習Ⅵ	4前		2		2							
	教職実践演習(中・高)	4後		2		1							
計(5科目)			-	0	10	0	2	0	0	0	0	0	
探求科目	教育学入門	1前-1後	2				1						
	教育学研究Ⅰ	2前	2			5	2						
	教育学研究Ⅱ	2後	2			5	2						
	教育学研究Ⅲ	3前	2			5	2						
	教育学研究Ⅳ	3後	2			5	2						
	卒業研究	4前-4後	4			5	2						
計(6科目)			-	14	0	0	5	3	0	0	0	0	
専門教育科目合計(80科目)			-	47	114	0	9	5	0	0	0	13	
教養教育科目	人間学科目群	文教学入門	1前	2								1	
		日本国憲法	1後	2			1					1	
		人生論	3前		2							1	
		大学での学びⅠ	1前	1								1	
		大学での学びⅡ	1後	1			1	1					
		小計(5科目)	-	4	4	0	2	1	0	0	0	3	
	現代教養科目群	A	現代思想と哲学	2~3	2								2
			日本とヒロシマの歴史	2~3	2								1
			文学を読む意味	2~3	2								1
			言葉とコミュニケーション	2~3	2			1					
			欧米と日本	2~3	2			1					
			アジアと日本	2~3	2								2
		B	社会とジェンダー	2~3	2								1
			くらしの中の心理学	2~3	2								1
			くらしと経済	2~3	2								1
			くらしと法律	2~3	2								1
			くらしと社会福祉	2~3	2								1
			地域と社会	2~3	2								1
			子どもと社会	2~3	2								1
			人権問題の歩みとその展望	2~3	2								1
	C	社会と生命科学	2~3	2								2	
食の科学		2~3	2								1		
からだと健康		2~3	2								2		
くらしと自然		2~3	2				1						
環境の科学		2~3	2								1		
食生活と健康		2~3	2								2		
メディアと社会	2~3	2				1							
小計(21科目)			-	0	42	0	2	2	0	0	0	22	
国際教育系	国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2								7	
		英語コミュニケーションⅡ	1後	2								7	
		英語コミュニケーションⅢ	2前	2								2	
		英語コミュニケーションⅣ	2後	2								2	
	国際教育系Ⅱ	イングリッシュワークショップⅠ	3前	1								1	
		イングリッシュワークショップⅡ	3後	1								1	
		イングリッシュワークショップⅢ	4前	1								1	
		イングリッシュワークショップⅣ	4後	1								1	
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前	2								1	
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後	2								1	
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前	2								1	
		フランスの言葉と文化Ⅳ	3後	2								1	
		中国の言葉と文化Ⅰ	2前	2								1	
		中国の言葉と文化Ⅱ	2後	2								1	
スキル教育科	中国の言葉と文化Ⅲ	3前	2								1		
	中国の言葉と文化Ⅳ	3後	2								1		
	異文化への理解Ⅰ	2前	2								1		
	異文化への理解Ⅱ	2後	2								1		

目群	情報教育	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
生涯教育系	情報処理演習Ⅲ	2前	2									1	
	情報処理演習Ⅳ	2後	2									1	
	運動学演習Ⅰ	1前	1		1							1	
	運動学演習Ⅱ	1・2・3・4後	1									1	
	運動学演習Ⅲ	2前	1									1	
	運動学演習Ⅳ	2後	1									1	
	生涯学習概論	1後	2									1	
	健康とスポーツ	1後	1									1	
	制作技法演習Ⅰ	3・4前	1		1								
	制作技法演習Ⅱ	3・4後	1		1								
障害者コミュニケーション技術	1前	1									6		
小計(31科目)			-	4	42	0	2	0	0	0	0	22	
キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後	2									1	
	キャリア形成概論Ⅱ	2前	2									1	
	インターンシップ	2前	2									1	
	プレゼンテーション技法	2後	2									1	
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前	2									1	
	ビジネス文書	3後	2									1	
小計(6科目)			-	0	12	0	0	0	0	0	0	2	
教養教育科目 合計(63科目)			-	8	100	0	6	2	0	0	0	42	
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後			2							1
		図書館概論	1前			2		1					
		図書館情報技術論	4前			2		1					
		図書館制度・経営論	3前			2							1
		図書館サービス概論	3前			2							1
		情報サービス論	3後			2		1					
		読書と豊かな人間性	3後			2		1					
		情報サービス演習	4前			2		1					
		図書館情報資源概論	1後			2							1
		情報資源組織論	2前			2							1
	情報資源組織演習	2後			2							1	
	乙群	図書館サービス特論	4後			1		1					
		図書・図書館史	4後			1							1
司書科目 合計(13科目)			-	0	0	24	1	1	0	0	0	5	
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前			2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後			2		1						
	学習指導と学校図書館	2後			2		1						
	読書と豊かな人間性	3後			2		1						
	情報メディアの活用	3前			2		1						
司書教諭科目 合計(5科目)			-	0	0	10	1	2	0	0	0	1	
総合計(161科目)			-	55	214	34	11	10	2	0	0	53	
卒業要件及び履修方法													
【教養教育科目】													
① 人間学科目群から4単位以上													
② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上													
③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上													
④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上													
【専門教育科目】													
教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目15単位、展開科目・探究科目から必修科目32単位及び選択必修科目18単位を修得し、合計128単位以上修得すること。													
なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。													
【国語教育コース】													
＜中学校教諭一種免許状(国語)＞													
教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語概論、日本語基礎演習、日本語の歴史、日本語の音声、日本文学概論、日本文学基礎演習、日本文学の歴史、表象文化と日本文学、漢文学概論、書写道演習、教材の研究と開発(中等国語)、中等国語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語文章論のうち2単位、日本文化実地演習、こどもと文学のうち2単位を修得すること。													
＜高等学校教諭一種免許状(国語)＞													
上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法(中)、書写道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。													
＜中学校教諭二種免許状(英語)＞													
教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語概論、英語基礎演習、英語文学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。													

【英語教育コース】

＜中学校教諭一種免許状(英語)＞

教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語基礎演習、英語の音声、英語ディスコース研究、英語学研究、英語文学概論、英語文学演習、英語文学研究、英語文学史、Basic English Communication I、異文化理解、教材の研究と開発(中等英語)、中等英語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等英語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、Reading Strategies Ⅰ、同Ⅱ、Writing Strategies Ⅰ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English Communication Ⅱ、International Communication Strategies Ⅰ、同Ⅱ、English for Education、Academic Englishのうち2単位を修得すること。

＜高等学校教諭一種免許状(英語)＞

上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法(中)及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。

＜中学校教諭二種免許状(国語)＞

教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語概論、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付され取得できる。

① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。

② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は大学の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更
 - ・「教育・保育のキャリアマネジメント」を「教育課程論」に変更
 - ・「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の時間の指導法（中・高）」に変更
 - ・「教師・保育者論」を「教師論（中・高）」に変更
 - ・「日本語学演習」を「日本語学基礎演習」に変更
 - ・「日本文学演習」を「日本文学基礎演習」に変更
- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更（元の科目名に（中・高）または（中）を追記）
 - ・教育の思想と歴史（中・高）
 - ・発達と学習（中・高）
 - ・教育方法学（中・高）
 - ・教育の制度と経営（中・高）
 - ・特別支援教育（中・高）
 - ・教育課程論（中・高）
 - ・道徳教育の理論と方法（中）
 - ・特別活動指導法（中・高）
 - ・生徒指導論（中・高）
 - ・学校教育相談（中・高）
 - ・進路指導とキャリア教育（中・高）
- ・教職課程認定における指摘により教員配置を変更
 - ・教育方法学（中・高）（教授1、准教授1から兼任1に変更）
 - ・特別活動指導法（中・高）（教授1、講師1から兼任1に変更）
 - ・学校教育相談（中・高）（准教授1から兼任1に変更）
- ・課程認定における指摘により教員配置を変更
 - ・English for Education（兼任1から教授1に変更）
- ・担当教員の昇進により専任教員等の配置を変更
 - （准教授1から教授1に変更）
 - ・日本語学概論
 - ・日本語のしくみ
 - ・日本語文章論
 - （教授1・准教授1から教授2に変更）
 - ・教育実習IV
 - ・教育実習V
 - ・教育実習VI
 - （教授4・准教授3から教授5・准教授2に変更）
 - ・教育学研究I
 - ・教育学研究II
 - ・教育学研究III
 - ・教育学研究IV
 - ・卒業研究
- ・教職課程認定における指摘により担当教員（教授1）を追加したこと及び担当教員の昇進により専任教員等の配置を変更（教授1・准教授2から教授3・准教授1に変更）
 - ・中等国語科教育法I
 - ・中等国語科教育法II
- ・教職課程認定における指摘により科目区分を変更
 - ・日本語学概論（基礎科目から展開科目へ移行）
 - ・英語基礎演習（基礎科目から展開科目へ移行）
- ・教職課程認定における指摘により授業科目（展開科目）の新規追加
 - ・日本語の歴史
 - ・日本語文化実地演習
- ・入学者数の増加に伴いクラスを分割することとしたため、教員配置を変更
 - （兼任2から兼任7に変更）
 - ・英語コミュニケーションI
 - ・英語コミュニケーションII
 - （兼任1から兼任6に変更）
 - ・障害者コミュニケーション技術

【令和2年度】

- ・指導体制の充実を図るため、「生徒の理解」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「野外活動」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「学校教育の体験活動（中・高）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に変更
- ・専任教員の時間割の都合により、「日本国憲法」の専任教員等の配置を「教授1」から「なし」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「大学での学びI」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「大学での学びII」の兼任・兼任「1」を追加
- ・兼任教員1名で担当することとしたため、「アジアと日本」の兼任・兼任を「2」から「1」に変更
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、「地域と社会」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「英語コミュニケーションIII」の兼任・兼任を「2」から「6」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「英語コミュニケーションIV」の兼任・兼任を「2」から「6」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「情報処理演習I」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「情報処理演習II」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更
- ・兼任教員辞任により、「運動学演習I」の兼任・兼任を「1（兼任）」から「2（兼任）」に変更
- ・授業内容の見直しのため、「障害者コミュニケーション技術」の兼任・兼任を「1」から「3」に変更

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画					変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計		
23 科目	116 科目	18 科目	157 科目	29 科目 [6]	114 科目 [Δ2]	18 科目 [-]	161 科目 [4]		

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：Δ1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{161} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況,経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎の建て替えにより 校舎敷地が減少した		
	校舎敷地	26,15826.362㎡	0㎡	0㎡	26,15826.362㎡			
	運動場用地	15,912㎡	0㎡	0㎡	15,912㎡			
	小 計	42,07042.274㎡	0㎡	0㎡	42,07042.274㎡			
	そ の 他	27,411㎡	0㎡	0㎡	27,411㎡			
	合 計	69,48169.685㎡	0㎡	0㎡	69,48169.685㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	〇〇短期大学と共用			
	(25,498㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(25,498㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	(補助職員 人) (補助職員 人)		
	3室	19室	5室	1室	0室			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			室		
	教育学部 教育学科		21 23					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
		教育学部 (95,474 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,550)	246 (206)	15 (6)	
	計	95,965 [18,972] (95,474 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,550)	246 (206)	15 (6)	
	計	95,965 [18,972] (95,474 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,550)	246 (206)	15 (6)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				
	3,000㎡		290席	300,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	3,103㎡		テニスコート: 2,769㎡		プール: 827㎡			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	1235千円	1235千円	1235千円
	共 同 研 究 費 等	0千円	0千円	設備購入費	1900千円	4000千円	800千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	入学金の金額を改訂したため、1年次納付金の金額を修正(2)
		1290+250千円	1020千円	1020千円	1020千円	0千円	0千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、寄付金、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

広島文教大学											備考	
大学の名称	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
	教育学部	4	150	0	600	学士(教育学)	1.09	1.06	-	令和元	-	
	教育学科	4	150	0	600	学士(教育学)	1.09	1.06	-	令和元	広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1	
	初等教育専攻	4	120	0	480	学士(教育学)	1.10	1.06	-	令和元	同上	
	中等教育専攻	4	30	0	120	学士(教育学)	1.03	1.06	-	令和元	同上	
	人間科学部	4	240	3年次35	1,030	-	0.94	1.18	令和元	昭和41	同上	平成12年文学部から学部名称変更 令和元年学生募集停止
	初等教育学科	4	-	-	-	学士(文学)	1.37	-	-	昭和56	同上	
	人間福祉学科	4	60	3年次20	280	学士(文学)	0.72	1.11	令和元	平成12	同上	定員変更(△20)
	心理学科	4	50	3年次10	220	学士(文学)	1.10	1.70	令和元	平成14	同上	定員変更(△20)
	人間栄養学科	4	70	0	280	学士(栄養学)	0.79	0.88	-	平成14	同上	
	グローバルコミュニケーション学科	4	60	3年次5	250	学士(文学)	0.80	1.16	令和元	平成22	同上	定員変更(△10)
	大学全体	4	390	35	1,630	-	0.93	1.13	-	-	-	
〇〇短期大学											備考	
大学の名称	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
		年	人	年次	人		倍					
												該当なし

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学部 教育学科> (中等教育専攻)

(1) - ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	岡 利道 (61) <平成31年4月> 修士(教育学) 教師・保育者論 ※ こどもと文学 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 読書と豊かな人間性	専	教授	岡 利道 (61) <平成31年4月> 修士(教育学) 教師論(中・高) ※ こどもと文学 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 読書と豊かな人間性	専	教授	岡 利道 (62) <平成31年4月> 修士(教育学) 教師論(中・高) ※ こどもと文学 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 読書と豊かな人間性
専	教授	石原 義文 (61) <平成31年4月> 修士(教育学) 英語科・外国語活動の学び 異文化理解	専	教授	石原 義文 (61) <平成31年4月> 修士(教育学) 英語科・外国語活動の学び 異文化理解 English for Education	専	教授	石原 義文 (62) <平成31年4月> 修士(教育学) 英語科・外国語活動の学び 異文化理解 English for Education
専	教授	今 崎 浩 (56) <平成31年4月> 修士(教育学) 特別活動指導法 ※ 生徒指導 ※ 学校間連携教育 ※ 大学での学びⅡ ※	専	教授	今 崎 浩 (56) <平成31年4月> 修士(教育学) 特別活動指導法(中・高) ※ 生徒指導(中・高) ※ 学校間連携教育 ※ 大学での学びⅡ ※	専	教授	今 崎 浩 (57) <平成31年4月> 修士(教育学) 特別活動指導法(中・高) ※ 生徒指導(中・高) ※ 学校間連携教育 ※ 大学での学びⅡ ※
専	教授	川 西 正行 (63) <平成31年4月> 教育学修士 運動学演習Ⅰ	専	教授	川 西 正行 (63) <平成31年4月> 教育学修士 運動学演習Ⅰ	専	教授	川 西 正行 (64) <平成31年4月> 教育学修士 運動学演習Ⅰ
専	教授	小 西 弘信 (55) <平成31年4月> 文学修士 英語基礎演習 英語テキストコース研究 英語文学概論 英語文学演習 英語文学研究 英語文学史 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 欧米と日本	専	教授	小 西 弘信 (55) <平成31年4月> 文学修士 英語基礎演習 英語テキストコース研究 英語文学概論 英語文学演習 英語文学研究 英語文学史 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 欧米と日本	専	教授	小 西 弘信 (56) <平成31年4月> 文学修士 英語基礎演習 英語テキストコース研究 英語文学概論 英語文学演習 英語文学研究 英語文学史 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 欧米と日本
専	教授	笹原 豊造 (68) <平成31年4月> 修士(教育学) 学校教育の体験活動(中・高) 生徒の理解 異文化理解 英語科・外国語活動の学び 教材の研究と開発(中等英語) 中等英語科教育法Ⅰ 中等英語科教育法Ⅱ 中等英語科教育法Ⅲ 中等英語科教育法演習 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教職実践演習(中・高) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	教授	笹原 豊造 (68) <平成31年4月> 修士(教育学) 学校教育の体験活動(中・高) 生徒の理解 異文化理解 英語科・外国語活動の学び 教材の研究と開発(中等英語) 中等英語科教育法Ⅰ 中等英語科教育法Ⅱ 中等英語科教育法Ⅲ 中等英語科教育法演習 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教職実践演習(中・高) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	教授	笹原 豊造 (69) <平成31年4月> 修士(教育学) 学校教育の体験活動(中・高) 生徒の理解 異文化理解 英語科・外国語活動の学び 教材の研究と開発(中等英語) 中等英語科教育法Ⅰ 中等英語科教育法Ⅱ 中等英語科教育法Ⅲ 中等英語科教育法演習 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教職実践演習(中・高) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	教授	杉 山 浩之 (60) <平成31年4月> 教育学修士 ※ 教育方法学 ※ 教育・保育のキャリアデザイン ※ 野外活動 学校間連携教育 ※	専	教授	杉 山 浩之 (60) <平成31年4月> 教育学修士 ※ 教育方法学(中・高) ※ 教育課程論(中・高) ※ 野外活動 学校間連携教育 ※	専	教授	杉 山 浩之 (61) <平成31年4月> 教育学修士 ※ 教育方法学(中・高) ※ 教育課程論(中・高) ※ 野外活動 学校間連携教育 ※
専	教授	橋 村 勝明 (50) <平成31年4月> 博士(文学) 日本語学演習 日本語の文学と語彙 日本語の音聲 教材の研究と開発(中等国語) ※ 日本語学講義 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 言葉とコミュニケーション	専	教授	橋 村 勝明 (50) <平成31年4月> 博士(文学) 日本語学演習 日本語の文学と語彙 日本語の音聲 教材の研究と開発(中等国語) ※ 日本語学講義 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 言葉とコミュニケーション	専	教授	橋 村 勝明 (51) <平成31年4月> 博士(文学) 日本語学演習 日本語の文学と語彙 日本語の音聲 教材の研究と開発(中等国語) ※ 日本語学講義 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 言葉とコミュニケーション
専	教授	村 上 典章 (63) <平成31年4月> 修士(教育学) 日本国憲法 ※	専	教授	村 上 典章 (63) <平成31年4月> 修士(教育学) 日本国憲法 ※			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		森 哲之 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)
		書写書道演習 表象文化と日本文学 ※ 教材の研究と開発(中等国語) ※ 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ
専 准教授		上 利 学 (53) <平成31年4月> 修士(文学)
		英語基礎演習 英語学概論 英語の音声 英語学研究 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専 准教授		猪川 優子 (45) <平成31年4月> 博士(文学)
		日本文学概論 日本文学演習 日本文学の歴史 表象文化と日本文学 ※ 日本文学講義 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 学習指導と学校図書館
専 准教授		上 村 加奈 (54) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育・保育のかわらばなプロジェクト ※
専 准教授		黒木 晶子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)
		日本語学概論 日本語のしくみ 日本語文章論 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専 准教授		三 田 幸司 (54) <平成31年4月> 博士(教育学)
		大学での学びⅡ ※ くらしと自然
専 准教授		庄(小川) ゆかり (53) <平成31年4月> 博士(学術)
		教育方法学 ※ メディアと社会 図書館概論 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス演習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館
専 准教授		白石 崇人 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育の思想と歴史 教師・保育者論 ※ 教育学入門 教育の制度と経営 道徳教育の理論と方法
専 准教授		新見 直子 (44) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習 ※ 進路指導とキャリア教育 生徒指導論 ※ 学校教育心理学
専 准教授		牧 亮太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習 ※ 学校教育相談
専 講師		大野内 愛 (34) <平成31年4月> 修士(教育学) ※
		特別活動指導法 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		森 哲之 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)
		書写書道演習 表象文化と日本文学 ※ 教材の研究と開発(中等国語) ※ 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ
専 准教授		上 利 学 (53) <平成31年4月> 修士(文学)
		英語基礎演習 英語学概論 英語の音声 英語学研究 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専 准教授		猪川 優子 (45) <平成31年4月> 博士(文学)
		日本文学概論 日本文学演習 日本文学の歴史 表象文化と日本文学 ※ 日本文学講義 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 学習指導と学校図書館
専 准教授		上 村 加奈 (54) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育・保育のかわらばなプロジェクト ※
専 准教授		黒木 晶子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)
		日本語学概論 日本語のしくみ 日本語文章論 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専 准教授		三 田 幸司 (54) <平成31年4月> 博士(教育学)
		大学での学びⅡ ※ くらしと自然
専 准教授		庄(小川) ゆかり (53) <平成31年4月> 博士(学術)
		教育方法学(中・高) ※ メディアと社会 図書館概論 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス演習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館
専 准教授		白石 崇人 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育の思想と歴史(中・高) ※ 教師論(中・高) ※ 教育学入門 教育の制度と経営(中・高) ※ 道徳教育の理論と方法(中)
専 准教授		新見 直子 (44) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習(中・高) ※ 進路指導とキャリア教育(中・高) ※ 生徒指導論(中・高) ※ 学校教育心理学
専 准教授		牧 亮太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習(中・高) ※ 学校教育相談(中・高)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 教授		森 哲之 (51) <平成31年4月> 修士(教育学)
		生徒の理解 海外活動 学校教育の体験活動(中・高) 書写書道演習 表象文化と日本文学 ※ 教材の研究と開発(中等国語) ※ 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ
専 准教授		上 利 学 (54) <平成31年4月> 修士(文学)
		英語基礎演習 英語学概論 英語の音声 英語学研究 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専 准教授		猪川 優子 (46) <平成31年4月> 博士(文学)
		日本文学概論 日本文学演習 日本文学の歴史 表象文化と日本文学 ※ 日本文学講義 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 学習指導と学校図書館
専 准教授		上 村 加奈 (55) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教育・保育のかわらばなプロジェクト ※
専 准教授		黒木 晶子 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)
		生徒の理解 海外活動 学校教育の体験活動(中・高) 日本語学概論 日本語のしくみ 日本語文章論 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専 准教授		三 田 幸司 (55) <平成31年4月> 博士(教育学)
		大学での学びⅡ ※ くらしと自然
専 准教授		庄(小川) ゆかり (54) <平成31年4月> 博士(学術)
		教育方法学(中・高) ※ メディアと社会 図書館概論 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス演習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館
専 准教授		白石 崇人 (40) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育の思想と歴史(中・高) ※ 教師論(中・高) ※ 教育学入門 教育の制度と経営(中・高) ※ 道徳教育の理論と方法(中)
専 准教授		新見 直子 (41) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習(中・高) ※ 進路指導とキャリア教育(中・高) ※ 生徒指導論(中・高) ※ 学校教育心理学
専 准教授		牧 亮太 (38) <平成31年4月> 博士(心理学)
		発達と学習(中・高) ※ 学校教育相談(中・高)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名	
兼任 教授	豊後 宏記 (60) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 生涯学習概論 プレゼンテーション技法
兼任 教授	宮崎 洋一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任 教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味
兼任 教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ
兼任 教授	植田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士※	子どもと社会
兼任 教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼任 教授	河村 大造 (62) <平成31年4月> 博士(工学)	食の科学
兼任 教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学
兼任 教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学
兼任 教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任 教授	松原 淳一 (61) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
兼任 准教授	阿武 久美子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任 准教授	伊藤 由美子 (51) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任 准教授	尾崎 英司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任 准教授	清水 克之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	日本国憲法 ※ くらしと社会福祉

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名	
兼任 教授	豊後 宏記 (60) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ プレゼンテーション技法
兼任 教授	宮崎 洋一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任 教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味
兼任 教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ
兼任 教授	植田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士※	子どもと社会
兼任 教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼任 教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学
兼任 教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学
兼任 教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任 教授	松原 淳一 (61) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
兼任 准教授	阿武 久美子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任 准教授	伊藤 由美子 (51) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任 教授	尾崎 英司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任 准教授	清水 克之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	日本国憲法 ※ くらしと社会福祉

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名	
兼任 教授	豊後 宏記 (61) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学びⅠ 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ プレゼンテーション技法
兼任 教授	宮崎 洋一 (56) <平成31年4月> 博士(史学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任 教授	森下 要治 (53) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味
兼任 教授	植田 智 (57) <平成31年4月> 文学修士※	子どもと社会
兼任 教授	小田 典子 (61) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼任 教授	黒川 知則 (69) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学
兼任 教授	田頭 穂積 (68) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学
兼任 教授	藤井 律子 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任 教授	松原 淳一 (62) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
兼任 教授	菅井 直也 (65) <令和2年4月> 教育学修士	地域と社会
兼任 准教授	阿武 久美子 (52) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任 准教授	伊藤 由美子 (52) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任 教授	尾崎 英司 (57) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任 准教授	清水 克之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	日本国憲法 ※ くらしと社会福祉

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	溝 淵 淳 (45) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		地域と社会
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)
		Reading Strategies I Reading Strategies II イグ/リッソウ-グリアフ I イグ/リッソウ-グリアフ II イグ/リッソウ-グリアフ III イグ/リッソウ-グリアフ IV
兼任	講師	Richard Terry Sugg (50) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)
		Writing Strategies I Writing Strategies II 英語コミュニケーションIII 英語コミュニケーションIV
兼任	講師	Gary Cook Graham (46) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)
		Basic English Communication I Basic English Communication II 英語コミュニケーションI 英語コミュニケーションII 英語コミュニケーションIII 英語コミュニケーションIV
兼任	講師	Lorna Layantes Beduya (46) <平成31年4月> Doctor of Philosophy English (オーストラリア)
		Basic English Communication I Basic English Communication II
兼任	講師	Yukari Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in LINGUISTICS (英国)
		Basic English Communication I Basic English Communication II
兼任	講師	Kelly Eileen Rose (38) <平成31年4月> Master of Education (米国)
		International Communication Strategy I International Communication Strategy II English for Education
兼任	講師	Jordan David Svien (36) <平成31年4月> Master of Arts(Teaching English as a Foreign/Second Language) (英国)
		Academic English
兼任	講師	小 原 寿 美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)
		社会とジェンダー キャリア形成概論 I キャリア形成概論 II インターンシップ コミュニケーションとソーシャル スキル ビジネス文書
兼任	講師	和 上 順 子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)
		情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報処理演習 III 情報処理演習 IV
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (31) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	溝 淵 淳 (45) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		地域と社会
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)
		Basic English Communication I Basic English Communication II Reading Strategies I Reading Strategies II イグ/リッソウ-グリアフ I イグ/リッソウ-グリアフ II イグ/リッソウ-グリアフ III イグ/リッソウ-グリアフ IV
兼任	講師	Richard Terry Sugg (50) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)
		Basic English Communication I Basic English Communication II Writing Strategies I Writing Strategies II 英語コミュニケーションIII 英語コミュニケーションIV
兼任	講師	Gary Cook Graham (46) <平成31年6月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)
		英語コミュニケーションIII 英語コミュニケーションIV
兼任	講師	Lorna Layantes Beduya (46) <平成31年4月> Doctor of Philosophy English (オーストラリア)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II
兼任	講師	Yukari Rutson-Griffiths (31) <平成31年6月> Master of Arts in LINGUISTICS (英国)
		Basic English Communication I Basic English Communication II
兼任	講師	Kelly Eileen Rose (38) <平成31年4月> Master of Education (米国)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II International Communication Strategy I International Communication Strategy II
兼任	講師	Jordan David Svien (36) <平成31年4月> Master of Arts(Teaching English as a Foreign/Second Language) (英国)
		Academic English
兼任	講師	小 原 寿 美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)
		社会とジェンダー キャリア形成概論 I キャリア形成概論 II インターンシップ コミュニケーションとソーシャル スキル ビジネス文書
兼任	講師	和 上 順 子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)
		情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報処理演習 III 情報処理演習 IV
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (37) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	溝 淵 淳 (46) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)
		地域と社会
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (32) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)
		Basic English Communication I Basic English Communication II Reading Strategies I Reading Strategies II イグ/リッソウ-グリアフ I イグ/リッソウ-グリアフ II イグ/リッソウ-グリアフ III イグ/リッソウ-グリアフ IV
兼任	講師	Richard Terry Sugg (51) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)
		Basic English Communication I Basic English Communication II Writing Strategies I Writing Strategies II 英語コミュニケーションIII 英語コミュニケーションIV
兼任	講師	Gary Cook Graham (47) <平成31年6月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)
		英語コミュニケーションIII 英語コミュニケーションIV
兼任	講師	Lorna Layantes Beduya (47) <平成31年6月> Doctor of Philosophy English (オーストラリア)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV
兼任	講師	Yukari Rutson-Griffiths (32) <平成31年6月> Master of Arts in LINGUISTICS (英国)
		Basic English Communication I Basic English Communication II
兼任	講師	Kelly Eileen Rose (39) <平成31年4月> Master of Education (米国)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II International Communication Strategy I International Communication Strategy II
兼任	講師	Jordan David Svien (37) <平成31年4月> Master of Arts(Teaching English as a Foreign/Second Language) (英国)
		Academic English
兼任	講師	小 原 寿 美 (52) <平成31年4月> 修士(文学)
		大学での学び I 社会とジェンダー キャリア形成概論 I キャリア形成概論 II インターンシップ コミュニケーションとソーシャル スキル ビジネス文書
兼任	講師	和 上 順 子 (48) <平成31年4月> 修士(文学)
		情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報処理演習 III 情報処理演習 IV
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (38) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任 助教	戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※
兼任 講師	高橋 泰道 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)	総合的な学習と アクティブラーニング
兼任 講師	若松 昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)	インクルーシブ教育・保育
兼任 講師	宮木 秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別支援教育
兼任 講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	現代思想と哲学
兼任 講師	河野 美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任 講師	戸板 律子 (56) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ
兼任 講師	沼田 有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任 講師	野村 卓史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任 講師	桃井 しづ (65) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション技術 ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任 講師		Julia Daley Amalia (28) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米國)
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任 講師		Tyler Montgomery (38) <平成31年4月> 修士(国際学)
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任 講師		Cristina Tong Malimban (47) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任 講師		小川 雅史 (59) <平成31年4月> 教育学士
		教育方法学(中・高)
兼任 助教	戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※
兼任 講師	高橋 泰道 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)	総合的な学習の指導法(中・高)
兼任 講師	若松 昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)	インクルーシブ教育・保育
兼任 講師	宮木 秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別支援教育(中・高)
兼任 講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	現代思想と哲学
兼任 講師	河野 美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任 講師	戸板 律子 (56) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ
兼任 講師	沼田 有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任 講師	野村 卓史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任 講師	桃井 しづ (65) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション技術 ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任 講師		Julia Daley Amalia (28) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米國)
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任 講師		Tyler Montgomery (38) <平成31年4月> 修士(国際学)
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任 講師		Cristina Tong Malimban (48) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任 講師		小川 雅史 (60) <平成31年4月> 教育学士
		教育方法学(中・高)
兼任 講師		細 田 裕 二 (41) <令和2年4月> 博士(生命システム科学)
		くらしと社会福祉
兼任 講師		Graig Anthony Nevitt (51) <令和2年4月> MBA
		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任 講師		Lyndon Lehde (43) <令和2年4月> Master of Education (Teaching English to Speakers of Other Languages) (米國)
		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任 助教	戸松 美紀子 (36) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※
兼任 講師	高橋 泰道 (61) <令和3年4月> 修士(教育学)	総合的な学習の指導法(中・高)
兼任 講師	若松 昭彦 (63) <令和4年4月> 博士(教育学)	インクルーシブ教育・保育
兼任 講師	宮木 秀雄 (38) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別支援教育(中・高)
兼任 講師	河野 美紗 (38) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任 講師	戸板 律子 (57) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ
兼任 講師	沼田 有史 (65) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任 講師	野村 卓史 (41) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任 講師	桃井 しづ (66) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション技術 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	山 川 秀 道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	くらしと法律
兼任	講師	山 口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	森 川 信 夫 (65) <令和3年4月> 文学士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤 澤 登 美 子 (76) <令和3年4月> 文学士	図書館サービス概論
兼任	講師	土 肥 善 嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂 免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	山 川 秀 道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	くらしと法律
兼任	講師	山 口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	森 川 信 夫 (65) <令和3年4月> 文学士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤 澤 登 美 子 (76) <令和3年4月> 文学士	図書館サービス概論
兼任	講師	土 肥 善 嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂 免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館

兼任	講師	山 田 浩 之 (56) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別活動指導法(中・高)
兼任	講師	山 田 洋 平 (38) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(中・高)
兼任	講師	國 貞 智 子 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論
兼任	講師	上 土 屋 理 絵 (35) <平成31年4月> 学士(臨床心理学)	障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	大 西 章 雄 (72) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	川 本 忠 夫 (69) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	春 田 明 子 (67) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	山 本 和 奈 (60) <平成31年4月> 準学士	障害者コミュニケーション 技術 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	山 田 浩 之 (57) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別活動指導法(中・高)
兼任	講師	山 田 洋 平 (39) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(中・高)
兼任	講師	國 貞 智 子 (35) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論
兼任	講師	浦 川 運 二 郎 (28) <令和2年4月> 修士(法学)	日本国憲法 くらしと法律
兼任	講師	中 本 康 彦 (31) <令和2年4月> 修士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河 辺 幸 雄 (70) <令和2年4月> 修士(法学)	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	川 和 田 晶 子 (52) <令和2年4月> 修士(文化史学)	情報処理解演習Ⅰ 情報処理解演習Ⅱ
兼任	講師	尾 崎 雄 祐 (28) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	村 上 紀 斗 美 (37) <令和2年4月> 修士(教育学)
		運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ
兼任	講師	清 水 和 行 (59) <令和2年4月>
		障害者コミュニケーション技術 ※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、岡教授（専任）担当科目「教師・保育者論※」を「教師論（中・高）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、岡教授（専任）に担当科目「中等国語科教育法Ⅰ※」「中等国語科教育法Ⅱ※」を追加
- ・教職課程認定における指摘により石原教授（専任）に担当科目「English for Education」を追加
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、今崎教授（専任）担当科目「特別活動指導法※」を「特別活動指導法（中・高）※」に、「生徒指導論※」を「生徒指導論（中・高）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、杉山教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学（中・高）※」に、「教育・保育のかわらぬマインド※」を「教育課程論（中・高）※」に変更
- ・黒木晶子准教授（専任）の昇任により職名を教授に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、庄（小川）准教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学（中・高）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、白石准教授（専任）担当科目「教育の思想と歴史」を「教育の思想と歴史（中・高）」に、「教師・保育者論※」を「教師論（中・高）※」に、「教育の制度と経営」を「教育の制度と経営（中・高）」に「道德教育の理論と方法」を「道德教育の理論と方法（中・高）」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、新見准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習（中・高）※」に、「進路指導とキャリア教育」を「進路指導とキャリア教育（中・高）」に、「生徒指導論※」を「生徒指導論（中・高）※」に変更
- ・牧准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習（中・高）※」に、「学校教育相談」を「学校教育相談（中・高）」に変更
- ・教職課程認定における指摘により大野内講師（専任）担当科目「特別活動指導法※」を削除
- ・河村大造教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・尾崎英司准教授（兼任）の昇任により職名を教授に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Arthur Rutson-Griffiths講師（兼任）に担当科目「Basic English CommunicationⅠ」「Basic English CommunicationⅡ」を追加
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Richard Terry Sugg講師（兼任）に担当科目「Basic English CommunicationⅠ」「Basic English CommunicationⅡ」・「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・教職課程認定における指摘によりGary Cook Graham講師（兼任）担当科目「Basic English CommunicationⅠ」「Basic English CommunicationⅡ」「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・教職課程認定における指摘により、初等教育と中等教育を区別するため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）担当科目「Basic English CommunicationⅠ」を「英語コミュニケーションⅠ」に、「Basic English CommunicationⅡ」を「英語コミュニケーションⅡ」に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Kelly Eileen Rose講師（兼任）に担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・教職課程認定における指摘によりKelly Eileen Rose講師（兼任）担当科目「English for Education」を削除
- ・Renaud Jonathan Davies講師（兼任）の年齢訂正
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Julia Daley Amalia講師（兼任）の挿入 担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Tyler Montgomery講師（兼任）の挿入 担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Cristina Tong Mallimban講師（兼任）の挿入 担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、小川雅史講師（兼任）挿入 担当科目「教育方法学（中・高）」
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、高橋泰道講師（兼任）担当科目「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の指導法（中・高）」変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、宮本秀雄講師（兼任）担当科目「特別支援教育」を「特別支援教育（中・高）」に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたこと及び授業方法の見直しにより、桃井しづ（兼任）講師担当科目「障害者コミュニケーション技術※」を「障害者コミュニケーション技術※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により専任教員担当予定であった科目「特別活動指導法（中・高）」を山田浩之（兼任）講師に変更
- ・教職課程認定における指摘により山田洋平（兼任）講師の挿入 担当科目「学校教育相談（中・高）」
- ・教職課程認定における指摘により國員智子（兼任）講師の挿入 担当科目「生涯学習概論」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、上土居理絵（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、大西章雄（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、川本忠夫（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、春田明子（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、山本和奈（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」

【令和2年度】

- ・時間割の都合により、村上典章教授（専任）の担当授業科目から「日本国憲法※」を削除
- ・指導体制の充実を図るため、森哲之教授（専任）の担当授業科目に「生徒の理解」「野外活動」「学校教育の体験活動（中・高）」を追加
- ・指導体制の充実を図るため、黒木晶子教授（専任）の担当授業科目に「生徒の理解」「学校教育の体験活動（中・高）」を追加
- ・時間割の都合により、豊後宏記教授（兼任）担当授業科目から「アジアと日本」を削除
- ・授業内容の見直しのため、宮崎洋一教授（兼任）の担当授業科目に「大学での学びⅡ」及び「障害者コミュニケーション技術※」を追加
- ・石井宏佳教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、菅井直也教授（兼任）に「地域と社会」を挿入
- ・清水克之准教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・担当教員の変更のため、Richard Terry Sugg講師（兼任）の担当授業科目から「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を削除
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・指導体制の充実を図るため、小原寿美講師（兼任）の担当授業科目に「大学での学びⅠ」を追加
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Renaud Jonathan Davies講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Julia Daley Amalia講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Tyler Montgomery講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・兼任教員辞任により、棚田裕二講師（兼任）、担当授業科目「くらしと社会福祉」を挿入
- ・指導体制の充実を図るため、Craig Anthony Nevitt講師（兼任）、担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を挿入
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Lyndon Lehde講師（兼任）、担当授業科目「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を挿入
- ・衛藤吉則講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・山川秀道講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・山口聡講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・上土居理絵講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・大西章雄講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・川本忠夫講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・春田明子講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・山本和奈講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・兼任教員辞任により、浦川源二郎講師（兼任）、担当授業科目「日本国憲法」「くらしと法律」を挿入
- ・兼任教員辞任により、中本慶彦講師（兼任）、担当授業科目「現代思想と哲学」を挿入
- ・兼任教員辞任により、河辺幸雄講師（兼任）担当授業科目「人権問題の歩みとその展望」を挿入
- ・クラス数を増やす必要が生じたため、川和田晶子講師（兼任）、担当授業科目「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を挿入
- ・兼任教員辞任により、尾崎雄祐講師（兼任）、担当授業科目「運動学演習Ⅰ」を挿入
- ・兼任教員辞任により、村上紀斗美講師（兼任）、担当授業科目「運動学演習Ⅰ」「運動学演習Ⅲ」「運動学演習Ⅳ」を挿入
- ・授業内容の見直しのため、清水和行講師（兼任）、担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇〇年月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
11	10	2	0	23	1	12	9	1	0	22	1
(10)	(10)	(2)	(0)	(23)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
12	9	1	0	22	1	12	9	2	0	23	1
[1]	[Δ1]	[Δ1]	[0]	[Δ1]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	2 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{22}{23} = \boxed{95.65} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{22} = \boxed{9.09} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{23} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任担当教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	該当なし	該当なし	該当なし

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学部 教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では、教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的として、高等教育研究センターを設置し、目的を達成のための具体的事項は、学長補佐1名を含む教員9名と事務職員3名（令和2年度）で構成する運営委員会において検討・審議を行っている。</p> <p>（広島文教大学高等教育研究センター規程 第1条及び第2条）</p> <p>第1条 この規程は、学校法人武田学園組織規程第14条第2項の規定に基づき、広島文教大学高等教育研究センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。</p> <p>第2条 センターは、本学における教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的とする。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>高等教育研究センター運営委員会は、令和元年度は12回開催し、毎回、ほぼ全員の委員が出席している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>高等教育研究センター運営委員会審議事項（広島文教大学高等教育研究センター運営委員会規程第2条）</p> <p>(1) 広島文教大学高等教育研究センター（以下「センター」という。）の業務及び運営に関すること。</p> <p>(2) その他センターに関し必要な事項に関すること。</p> <p>広島文教大学高等教育研究センターの業務（広島文教大学高等教育研究センター規程第3条）</p> <p>(1) 高等教育に係る調査及び研究に関すること。</p> <p>(2) 高等教育の質保証に係る支援及び推進に関すること。</p> <p>(3) 高等教育に関する情報の収集及び分析に関すること。</p> <p>(4) 情報の公開に関すること。</p> <p>(5) 将来構想の企画・立案に関すること。</p> <p>(6) ファカルティ・デベロップメントに関すること。</p> <p>(7) センター刊行物の編集及び刊行に関すること。</p> <p>(8) 研究倫理に関すること。</p> <p>(9) その他、センターの目的を達成するために必要な業務</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p><令和元年度実績></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公開授業（教員相互の授業参観）の実施 2. FD・SD研修会の実施 3. 広島文教大学紀要の発行 4. 広島文教大学高等教育研究の発行 5. 「新任教員研修プログラム」の実施

b 実施方法

1. 公開授業（教員相互の授業参観）

学生による授業評価アンケートの結果に基づいて、評価の高い授業を前・後期それぞれ5科目ずつ公開授業対象科目として決定し、教職員に周知している。

2. FD・SD研修会

毎回の研修会について、高等教育研究センター運営委員会でテーマを設定し、学内から教員、事務職員を問わず適任者を講師として選出・決定して実施している。

3. 広島文教大学紀要の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準と教員の研究能力の維持向上を図っている。

4. 広島文教大学高等教育研究の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準と教員の研究能力の維持向上を図っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 公開授業（教員相互の授業参観）

(1) 前期（5月第4週目—7月第1週目）

5科目の公開授業を実施し、出席参加者の総数は33名、アンケートの回答は21名

(2) 後期（12月第2週目—第3週目）

5科目の公開授業を実施し、出席参観者の総数は36名、アンケートの回答は14名

※アンケート回答では総じて他の授業を参観して自身の授業改善の参考になったとの意見が多数寄せられた

2. FD・SD研修会

夏期（9月12日、13日）：2日間にわたり、分科会では6講座、全体会では3講座を実施（参加者74名）

※冬期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、延期した

3. 広島文教大学紀要

教員の研究活動支援促進として、広島文教大学紀要54巻を発行し、7編の原著論文を掲載

4. 広島文教大学高等教育研究

教員の研究活動支援促進として、広島文教大学高等教育研究第6巻を発行し、4編の原著論文を掲載

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員の資質の維持向上を目的とするFD・SD活動のうち、「1. 公開授業」及び「2. FD・SD研修会」については、実施後に参加者へのアンケート調査を行っている。公開授業については、参加者のFDの機会とするとともに、授業を公開した教員にアンケート調査結果をフィードバックして、授業者・参観者双方の資質向上の機会となるように図っている。また、FD・SD研修会については、開催した各講座のプレゼンテーション資料のうちで公開可能なものを学内ポータルサイトに掲載し、全教職員の情報の共有と資質向上に資するよう、配慮している。

また、「3. 広島文教大学紀要」及び「4. 広島文教大学高等教育研究」には、理論的研究だけでなく、教育実践報告や学修者の実態に関する調査結果等を積極的に掲載して教職員に配付し、教員の資質の維持向上方策の一助としている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1. 学生による授業評価アンケート（前・後期の2回実施）

前期は7月から8月、後期は1月から3月を回答期間として実施

2. 学修状況調査（後期）

1-3月を回答期間として実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果は、授業科目ごとの集計結果とともに、教養教育科目、専門教育科目（学科別）及び教職科目ごとにも集計され、学内ポータルサイトで公開されており、教職員や学生が自由に閲覧できる。
また、アンケートの結果、学生による評価の高かった授業科目は、翌年度に公開授業（教員相互の授業参観）の対象科目として公開されている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。
併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況 (回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教育学部教育学科では、「教育学・保育学分野に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付け、理論と実践の関係について理解した上で総合的に実践できる応用能力の修得に向けた教育を行うこと」及び「学校や家庭・地域における教育・保育を主体的に創造する能力と態度を身に付けた幅広い職業人を育成することにより、地域社会への貢献を目指すこと」を教育研究上の目的とし、「教育に関する専門的な知識や技能を修得し、主体性と協同性を持った逞しい実践力のある人材」を育成することを目標として、設置の趣旨・目的に謳っている。今日の学校教育の現場における課題は、いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の課題対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、ICT機器の活用、校種間連携の推進など、複雑化・多様化の様相を呈している。また、地域社会のニーズとして、知識や教育技術において秀でた良質の教員を供給することが求められてもいる。このような学校教育の現状や地域社会の要請に鑑み、教育研究上の目的及び人材育成目標の実現・達成に向けて、引き続き教育・研究活動を推進する。

なお、開設当初からの本学科への志願者数は、入学定員150名に対して初年度（令和元年度）1,230名（志願倍率8.2倍）、開設2年目（令和2年度）は1,121名（志願倍率7.47倍）となり、これは本学科の設置の趣旨・目的等が社会的要請に十分応えうるものであることを示している。今後も、本学科の特色ある教育の充実に努め、その取り組みと成果を学外に対して積極的に発信し、志願者の拡大・維持に努めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・大学機関別認証評価受審結果（令和2年3月認定）の公表とともに自己点検評価書を令和2年4月に公表

b 公表方法

- ・大学ホームページ上で公表

③ 認証評価を受ける計画

- ・公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を令和元年度に受審し、次回は令和8年度に受審予定

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトにて公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。